

# イザヤ書

**Isaiah**

旧約聖書

## 第1章

- 1 アモツの子イザヤの幻。これは彼がユダとエルサレムについて、ユダの王ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代に見たものである。
- 2 天よ、聞け。地も耳を傾けよ。主が語られるからだ。「子どもたちはわたしが育てて、大きくした。しかし、彼らはわたしに背いた。
- 3 牛はその飼い主を、ろばは持ち主の飼葉桶を知っている。しかし、イスラエルは知らない。わたしの民は悟らない。」
- 4 わざわいだ。罪深き国、咎重き民、悪を行う者どもの子孫、墮落した子ら。彼らは主を捨て、イスラエルの聖なる方を侮り、背を向けて離れ去った。
- 5 あなたがたは、反抗に反抗を重ねてなおも、どこを打たれようというのか。頭は残すところなく病み、心臓もすべて弱っている。
- 6 足の裏から頭まで健全なところはなく、傷、打ち傷、生傷。絞り出してももらえず、包んでももらえず、油で和らげてもらえない。
- 7 あなたがたの地は荒れ果て、あなたがたの町々は火で焼かれている。土地は、あなたがたの前で他国人が食い荒らし、他国人に破壊されたように、荒れ果てている。
- 8 しかし、娘シオンは残された。あたかも、ぶどう畑の小屋のように、きゅうり畑の番小屋のように、包囲された町のように。
- 9 もしも、万軍の主が私たちに生き残りの者をわずかでも残されなかったなら、私たちがソドムのようになり、ゴモラと同じになっていたであろう。
- 10 聞け。ソドムの首領たちよ、主のことばを。耳を傾けよ。ゴモラの民よ、私たちの神のみおしえに。
- 11 「あなたがたの多くのいけにえは、わたしにとって何になろう。—主は言われる— わたしは、雄羊の全焼のささげ物や、肥えた家畜の脂肪に飽きた。雄牛、子羊、雄やぎの血も喜ばない。
- 12 あなたがたは、わたしに会いに出て来るが、だれが、わたしの庭を踏みつけよとあなたがたに求めたのか。
- 13 もう、むなしいささげ物を携えて来るな。香の煙、それはわたしの忌み嫌うもの。新月の祭り、安息日、会合の召集— わたしは、不義と、きよめの集會に耐えられない。
- 14 あなたがたの新月の祭りや例祭を、わたしの心は憎む。それはわたしの重荷となり、それを担うのに疲れ果てた。
- 15 あなたがたが手を伸べ広げて祈っても、わたしはあなたがたから目をそらす。どんなに祈りを多くしても聞くことはない。あなたがたの手は血まみれだ。
- 16 洗え。身を清めよ。わたしの目の前から、あなたがたの悪い行いを取り除け。悪事を働くのをやめよ。
- 17 善をなすことを習い、公正を求め、虐げる者を正し、みなしごを正しくさばき、やもめを弁護せよ。」
- 18 「さあ、来たれ。論じ合おう。—主は言われる— たとえ、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。たとえ、紅のように赤くても、羊の毛のようになる。
- 19 あなたがたは、もし喜んで聞こうとするなら、この地の良い物を食べることができる。

- 20 しかし、もし拒んで背くなら、 剣に食い尽くされる。 一主の御口がそう語られる。」
- 21 どうして遊女になったのか、 忠実な都が。 公正があふれて、 義がそこに宿っていたのに。 今  
は人殺しばかりだ。
- 22 おまえの銀は金かすになった。 おまえの良い酒も水で薄められている。
- 23 おまえの君主たちは強情者、 盗人の仲間。 みな賄賂を愛し、 報酬を追い求める。 みなしごを  
正しくさばかず、 やもめの訴えも彼らには届かない。
- 24 「それゆえ一万軍の主、 イスラエルの力強き者である主のことば— ああ、 わたしは逆らう者  
に思いを晴らし、 わたしの敵に復讐する。
- 25 わたしは、 わが手をおまえに対して向け、 おまえの金かすを灰汁のように溶かし、 その浮き  
かすをみな除く。
- 26 こうして、 おまえをさばく者たちを以前のように、 おまえに助言する者たちを最初のように  
する。 その後、 おまえは正義の町、 忠実な都と呼ばれる。」
- 27 シオンは公正によって贖われ、 その町の立ち返る者は義によって贖われる。
- 28 背く者と罪人はともに破滅し、 主を捨てる者は消え失せる。
- 29 まことに、 彼らは あなたがたが慕った榿の木で恥を見、 あなたがたは 自ら選んだ園によって  
屈辱を受ける。
- 30 あなたがたは葉のしおれた榿の木のように、 水のない園のようになるからだ。
- 31 強い者は麻屑に、 その行いは火花になり、 二つとも燃えさかり、 これを消す者はいない。

## 第2章

- 1 アモツの子イザヤが、 ユダとエルサレムについて見たことば。
- 2 終わりの日に、 主の家の山は山々の頂に堅く立ち、 もろもろの丘より高くそびえ立つ。 そこ  
にすべての国々が流れて来る。
- 3 多くの民族が来て言う。「さあ、 主の山、 ヤコブの神の家に上ろう。 主はご自分の道を私た  
ちに教えてください。 私たちはその道筋を進もう。」それは、 シオンからみおしえが、 エル  
サレムから主のことばが出るからだ。
- 4 主は国々の間をさばき、 多くの民族に判決を下す。 彼らはその剣を鋤に、 その槍を鎌に打ち  
直す。 国は国に向かって剣を上げず、 もう戦うことを学ばない。
- 5 ヤコブの家よ、 さあ、 私たちも主の光のうちを歩もう。
- 6 まことに、 あなたは、 あなたの民、 ヤコブの家を捨てられました。 彼らはペリシテ人のよう  
に 東方からの者、 ト者で満ち、 異国人の子らであふれています。
- 7 その地は銀や金で満ち、 財宝は限りなく、 その地は馬で満ち、 戦車の数も限りありません。
- 8 その地は偽りの神々で満ち、 彼らは自分の手で造った物を、 指で造った物を拜んでいます。
- 9 こうして人間はかがめられ、 人は低くされます。 彼らを赦さないでください。
- 10 岩の間に入り、 土の中に身を隠せ。 主の恐るべき御顔を、 その威光の輝きを避けて。
- 11 その日には、 人間の高ぶりの目は低くされ、 人々の思い上がりはかがめられ、 主おひとりだ  
けが高く上げられる。
- 12 まことに、 万軍の主の日は、 すべてのおごり高ぶる者、 すべての誇る者の上であり、 これを  
低くする。

- 13 またそれは、高くそびえる レバノンのすべての杉の木と、 パシヤンのすべての檜の木、
- 14 すべての高い山々と、 すべてのそびえる峰々、
- 15 すべてのそそり立つやぐらと、 すべての堅固な城壁、
- 16 タルシシュのすべての船、 すべての慕わしい船の上にある。
- 17 その日には、 人間の高ぶりはかがめられ、 人々の思い上がりは低くされ、 主おひとりだけが 高く上げられる。
- 18 偽りの神々はことごとく消え失せる。
- 19 主が立ち上がり、 地を脅かすとき、 人々は主の恐るべき御顔を、 その威光の輝きを避けて、 岩の洞穴や土の穴に入る。
- 20 その日、 人は、 自分が拝むために造った 銀の偽りの神々と金の偽りの神々を、 もぐらや、 こうもりに投げやる。
- 21 主が立ち上がり、 地を脅かすとき、 人々は、 主の恐るべき御顔を、 その威光の輝きを避けて、 岩の割れ目や、 巖の裂け目に入る。
- 22 人間に頼るな。 鼻で息をする者に。 そんな者に、 何の値打ちがあるか。

### 第3章

- 1 まことに、 見よ、 万軍の主、 主は エルサレムとユダから、 支えと頼みになるものを除かれる。 すべての頼みのパン、 すべての頼みの水、
- 2 勇士と戦士、 さばき人と預言者、 占い師と長老、
- 3 五十人隊の長と身分の高い者、 助言者と賢い細工人、 巧みにまじないをかける者を。
- 4 「わたしは、 若い者たちを彼らの君主とし、 気まぐれ者に彼らを治めさせる。
- 5 民はそれぞれ仲間同士で虐げ合い、 若い者は年寄りに向かって尊大にふるまう。 身分の低い者は高い者に向かって。
- 6 そのとき、 人は父の家で 自分の兄弟を捕らえてこう言う。 『あなたは着る物を持っている。 私たちの首領になってくれ。 この乱れ果てた有様を、 あなたの手で治めてくれ。』
- 7 その日、 彼は声を張り上げて言う。 『私は傷の手当てをする者にはなれない。 家にはパンもなく、 着る物もない。 私を民の首領にはしないでくれ』と。
- 8 これは、 エルサレムがつまずき、 ユダが倒れたからであり、 彼らの舌と行いが主に背き、 主の栄光の現れに逆らったからである。
- 9 彼らの顔つきがそれを表している。 彼らは罪をソドムのようにあらわにし、 隠そうとしなかった。 彼らのたましいはわざわざいだ。 悪の報いを受けるのだから。
- 10 正しい人は幸いだ、 と言え。 その人たちは自分の行いの実を食べる。
- 11 悪しき者、 悪人はわざわざいだ。 その手の報いは自分自身に降りかかる。
- 12 わが民は、 幼子が虐げ、 また女たちがこれを治める。 わが民よ。 あなたの案内人たちは迷わす者。 あなたの歩む道をかき乱す。」
- 13 主は論争するために立ち構え、 もろもろの民をさばくために立たれる。
- 14 主は、 ご自分の民の長老たちや君主たちと、 さばきの座に入られる。「あなたがたは、 ぶどう畑を荒れすたらせた。 貧しい者からかすめた物が自分たちの家にある。

- 15 なぜ、あなたがたは、わが民を砕き、貧しい者の顔を白ですりつぶすのか。一万軍の神、主のことば。」
- 16 主は言われた。「シオンの娘たちは高ぶり、首を伸ばし、色目を使って歩き、足に鈴を鳴らしながら小股で歩く。」
- 17 それで、主はシオンの娘たちの頭の頂をかさぶたでおおい、主は彼女たちの額をむき出しにされる。
- 18 その日、主はもろもろの飾りを除かれる。足飾り、髪の大輪飾り、三日月形の飾り物、
- 19 耳輪、腕輪、ベール、
- 20 頭飾り、くるぶしの鎖、飾り帯、香の入れ物、お守り札、
- 21 指輪、鼻輪、
- 22 礼服、外套、羽織物、金入れ、
- 23 手鏡、亜麻布の衣服、ターバン、かぶり物を。
- 24 こうして、芳香は悪臭となり、帯は荒縄、結び上げた髪ははげた頭、豪華な衣装は粗布の腰巻き、その美しさは焼き印となる。
- 25 あなたの男たちは剣に、あなたの勇士たちは戦いに倒れる。
- 26 シオンの門は悲しみ嘆き、さびれ果てて地の上に座す。

## 第4章

- 1 その日、七人の女が、一人の男にすがりついて言う。「私たちは自分のパンを食べ、自分の服を着ます。私たちがあなたの名で呼ばれるようにして、恥辱を取り去ってください。」
- 2 その日、主の若枝は麗しいものとなり、栄光となる。地の果実はイスラエルの逃れの者にとって、誇りとなり、輝きとなる。
- 3 シオンに残された者、エルサレムに残った者は、聖なる者と呼ばれるようになる。みなエルサレムに生きる者として書き記されている。
- 4 主が、さばきの霊と焼き尽くす霊によって、シオンの娘たちの汚れを洗い落とし、エルサレムの血をその町の中から洗い流すとき、
- 5 主は、シオンの山のすべての場所とその会合の上に、昼には雲を、夜には煙と燃え立つ火の輝きを創造される。それはすべての栄光の上に覆いとなり、
- 6 その仮庵は昼に暑さを避ける陰となり、嵐と雨から逃れる避け所、また隠れ家となる。

## 第5章

- 1 「さあ、わたしは歌おう。わが愛する者のために。そのぶどう畑についての、わが愛の歌を。わが愛する者は、よく肥えた山腹にぶどう畑を持っていた。
- 2 彼はそこを掘り起こして、石を除き、そこに良いぶどうを植え、その中にやぐらを立て、その中にぶどうの踏み場まで掘り、ぶどうがなるのを心待ちにしていた。ところが、酸いぶどうができてしまった。
- 3 今、エルサレムの住民とユダの人よ、さあ、わたしとわがぶどう畑との間をさばけ。
- 4 わがぶどう畑になすべきことで、何かわたしがしなかったことがあるか。なぜ、ぶどうがなるのを心待ちにしていたのに、酸いぶどうができたのか。

- 5 さあ、今度はわたしがあなたがたに知らせよう。わたしが、わがぶどう畑に対してすることを。わたしはその垣を取り払い、荒れすたれるに任せ、その石垣を崩して、踏みつけられるままにする。
- 6 わたしはこれを滅びるままにしておく。枝は下ろされず、草は刈られず、茨やおどろが生い茂る。わたしは雨雲に命じて、この上に雨を降らせないようにする。」
- 7 万軍の主のぶどう畑はイスラエルの家。ユダの人は、主が喜んで植えたもの。主は公正を望まれた。しかし見よ、流血。正義を望まれた。しかし見よ、悲鳴。
- 8 わざわいだ。家に家を連れ、畑に畑を隣り合わせる者たち。あなたがたは場所を残さず、自分たちだけこの地に住もうとしている。
- 9 私の耳に万軍の主は告げられた。「必ず、多くの家は荒れすたれ、大きな美しい家々も住む者がいなくなる。
- 10 十ツエメドのぶどう畑が一バテを産し、一ホメルの種が一エパを産するからだ。」
- 11 わざわいだ。朝早くから強い酒を追い求め、夜が更けるまで、ぶどう酒に身を委ねる者たち。
- 12 彼らの酒宴には豎琴と琴、タンバリンと笛とぶどう酒がある。彼らは主のなさることに目を留めず、御手のわざを見もしない。
- 13 それゆえ、私の民は知識がないために捕らえ移される。その貴族たちは飢えた者となり、その民衆は渴きで干からびる。
- 14 それゆえ、よみは喉を広げ、果てしなく口を開ける。エルサレムの威光も、騒音も、どよめきも、そこでの歓声も、よみに落ち込む。
- 15 こうして人間はかがめられ、人は低くされる。高ぶる者の目も低くされる。
- 16 しかし、万軍の主はさばきによって高くなり、聖なる神は正義によって、自ら聖なることを示される。
- 17 子羊は自分の牧場にいるように草を食べ、肥えた獣は廃墟にとどまって食をとる。
- 18 わざわいだ。嘘を綱として咎を引き寄せる者。車の手綱できるように、罪を引き寄せる者たち。
- 19 彼らは言う。「彼のすることを早くさせよ。急がせよ。それを見てみたい。イスラエルの聖なる方のご計画が近づいて、成就すればよい。それを知りたい」と。
- 20 わざわいだ。悪を善、善を悪と言う者たち。彼らは闇を光、光を闇とし、苦みを甘み、甘みを苦みとする。
- 21 わざわいだ。自分を知恵のある者と見なし、自分を悟りのある者と思い込む者たち。
- 22 わざわいだ。酒を飲むことにかけては勇士、強い酒を混ぜ合わせることにかけては豪の者。
- 23 彼らは賄賂のために、悪者を正しいと宣言し、その悪者から正しい者たちの正しさを遠ざける。
- 24 それゆえ、火の舌が刈り株を焼き尽くし、枯れ草が炎の中に溶けゆくように、彼らの根は腐り、その花も、ちりのように舞い上がる。彼らが万軍の主のおしえをないがしろにし、イスラエルの聖なる方のことばを侮ったからだ。
- 25 それゆえ、主の怒りはその民に向かって燃え、これに御手を伸ばして打つ。山々は震え、彼らの屍は、通りで、あくたのようになる。それでも御怒りは収まらず、なおも御手は伸ばされている。

- 26 主は遠く離れた国に旗を揚げ、地の果てから来るように合図される。すると見よ、それは急いで速やかに来る。
- 27 その中には、疲れる者も、つまづく者もない。だれ一人、まどろまず、眠らず、その腰の帯は解かれず、履き物のひもは切れない。
- 28 その矢は研ぎ澄まされ、弓はみな張られ、馬のひづめは火打石のように、その車輪はつむじ風のように見える。
- 29 その吼え方は獅子のよう。若獅子のように吼え、うなり、獲物を捕らえる。奪って行くと、救い出せる者はいない。
- 30 その日、その民は海のとどろきのように、イスラエルにうなり声をあげる。地を見やると、見よ、闇と苦しみ。光さえ雨雲の中で暗くなる。

## 第6章

- 1 ウジヤ王が死んだ年に、私は、高く上げられた御座に着いておられる主を見た。その裾は神殿に満ち、
- 2 セラフィムがその上の方に立っていた。彼らにはそれぞれ六つの翼があり、二つで顔をおおい、二つで両足をおおい、二つで飛んでいて、
- 3 互いにこう呼び交わしていた。「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の主。その栄光は全地に満ちる。」
- 4 その叫ぶ者の声のために敷居の基は揺らぎ、宮は煙で満たされた。
- 5 私は言った。「ああ、私は滅んでしまう。この私は唇の汚れた者で、唇の汚れた民の間に住んでいる。しかも、万軍の主である王をこの目で見たのだから。」
- 6 すると、私のもとにセラフィムのひとりが飛んで来た。その手には、祭壇の上から火ばさみで取った、燃えさかる炭があった。
- 7 彼は、私の口にそれを触れさせて言った。「見よ。これがあなたの唇に触れたので、あなたの咎は取り除かれ、あなたの罪も赦された。」
- 8 私は主が言われる声を聞いた。「だれを、わたしは遣わそう。だれが、われわれのために行くだろうか。」私は言った。「ここに私がおります。私を遣わしてください。」
- 9 すると主は言われた。「行って、この民に告げよ。『聞き続けよ。だが悟るな。見続けよ。だが知るな』と。」
- 10 この民の心を肥え鈍らせ、その耳を遠くし、その目を固く閉ざせ。彼らがこの目で見ることも、耳で聞くことも、心で悟ることも、立ち返って癒やされることもないように。」
- 11 私が「主よ、いつまでですか」と言うと、主は言われた。「町々が荒れ果てて住む者がなく、家々にも人がいなくなり、土地も荒れ果てて荒れ地となる。」
- 12 主が人を遠くに移し、この地に見捨てられた場所が増えるまで。
- 13 そこには、なお十分の一が残るが、それさえも焼き払われる。しかし、切り倒されたテレビンや樅の木のように、それらの間に切り株が残る。この切り株こそ、聖なる裔。」

## 第7章

- 1 ウジヤの子のヨタムの子、ユダの王アハズの時代、アラムの王レツィンと、イスラエルの王レマルヤの子ペカが、戦いのためにエルサレムに上って来たが、これを攻めきれなかった時のことである。
- 2 ダビデの家に「アラムがエフライムと組んだ」という知らせがもたらされた。王の心も民の心も、林の木々が風に揺らぐように揺らいだ。
- 3 そのとき、主はイザヤに言われた。「あなたと、あなたの子シェアル・ヤシュブは、上の池の水道の端、布さらしの野への大路に出向いて行ってアハズに会い、
- 4 彼に言え。『気を確かに持ち、落ち着いていなさい。恐れてはならない。あなたは、これら二つの煙る木切れの燃えさし、アラムのレツィンとレマルヤの子の燃える怒りに、心を弱らせてはならない。
- 5 アラムは、エフライムすなわちレマルヤの子とともに、あなたに対して悪事を企てて、
- 6 「われわれはユダに上ってこれを脅かし、これに攻め入ってわがものとし、タベアルの子をその王にしよう」と言っているが、
- 7 神である主はこう言われる。それは起こらない。それはあり得ない。
- 8 アラムのかしらはダマスコ、そのダマスコのかしらがレツィンだから。—エフライムは六十五年のうちに、打ちのめされて、一つの民ではなくなる—
- 9 エフライムのかしらはサマリア、そのサマリアのかしらがレマルヤの子だから。あなたがたは、信じなければ 堅く立つことはできない。』」
- 10 主はさらにアハズに告げられた。
- 11 「あなたの神、主に、しるしを求めよ。よみの深みにでも、天の高みにでも。」
- 12 アハズは言った。「私は求めません。主を試みません。」
- 13 イザヤは言った。「さあ、聞け、ダビデの家よ。あなたがたは人々を煩わすことで足りず、私の神までも煩わすのか。
- 14 それゆえ、主は自ら、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ。
- 15 この子は、悪を退けて善を選ぶことを知るころまで、凝乳と蜂蜜を食べる。
- 16 それは、その子が悪を退けて善を選ぶことを知る前に、あなたが恐怖を抱いている二人の王の土地が見捨てられるからだ。
- 17 主は、あなたとあなたの民とあなたの父の家に、エフライムがユダから離れた日以来、まだ臨んだこともない日々をもたらす。それはアッシリアの王だ。」
- 18 その日になると、主はエジプトの幾筋もの川の果てにいるあの蠅、アッシリアの地にいるあの蜂に合図される。
- 19 すると彼らはみなやって来て、険しい谷、岩の割れ目、あらゆる茨の茂み、あらゆる水飲み場に巣くう。
- 20 その日、主は大河の向こうで雇ったかみそり、アッシリアの王を使って 頭と足の毛を剃り、ひげまでも剃り落とす。
- 21 その日になると、一人の人が 雌の子牛一頭と羊二匹を生かしておく。

- 22 これらが乳を多く出すので、彼は凝乳を食べようになる。この地に残されたすべての者が凝乳と蜂蜜を食べようになる。
- 23 その日になると、銀千枚に値する、ぶどう千株のある地所もみな、茨とおどろのものとなる。
- 24 全土が茨とおどろになるので、人は弓矢を持って、そこに行く。
- 25 鋤で耕されたすべての山にも、あなたは茨とおどろを恐れて、行かない。そこは牛が放たれて、羊の踏み歩く場所となる。

## 第8章

- 1 主は私に言われた。「一つの大きな板を取り、その上に普通の文字で、『マヘル・シャルル・ハシュ・バズのため』と書け。
- 2 そうすれば、わたしは祭司ウリヤとエベレクヤの子ゼカリヤに、わたしの確かな証人として証言させる。」
- 3 それから私は女預言者に近づいた。彼女は身ごもって男の子を産んだ。すると、主は私に言われた。「その名をマヘル・シャルル・ハシュ・バズと名づけよ。
- 4 それは、この子が『お父さん。お母さん』と呼ぶことを知る前に、ダマスコの財宝とサマリアの分捕り物が、アッシリアの王の前に持ち去られて行くからである。」
- 5 主はさらに、続けて私に言われた。
- 6 「この民は、ゆるやかに流れるシロアハの水を拒み、レツインとレマルヤの子を喜んでい
- 7 る。それゆえ、見よ。主は、強く水の豊かなあの大河の水、アッシリアの王とそのすべての栄光を彼らの上にあふれさせる。それはすべての運河にあふれ、すべての堤を越え、
- 8 ユダに勢いよく流れ込み、あふれみなぎって首にまで達する。その広げた翼は、インマヌエルよ、あなたの地をおおい尽くす。」
- 9 諸国の民よ、打ち砕かれよ。遠く離れたすべての国々よ、耳を傾けよ。腰に帯をして、わななけ。腰に帯をして、わななけ。
- 10 はかりごとをめぐらせ。しかしそれは破られる。事を謀れ。しかしそれは成らない。神が私たちとともにおられるからだ。
- 11 まことに、主は強い御手をもって私を捕らえ、この民の道に歩まないよう、私を戒めてこう言われた。
- 12 「あなたがたは、この民が謀反と呼ぶことを何一つ謀反と呼ぶな。この民が恐れるものを恐れてはならない。おびえてはならない。
- 13 万軍の主、主を聖なる者とせよ。主こそ、あなたがたの恐れ。主こそ、あなたがたのおののき。
- 14 そうすれば、主が聖所となる。しかし、イスラエルの二つの家にとっては妨げの石、つまずきの岩となり、エルサレムの住民には罨となり、落とし穴となる。
- 15 多くの者がそれにつまずき、倒れて打ち砕かれ、罨にかかって捕らえられる。
- 16 この証しの書を束ねよ。このおしえをわたしの弟子たちのうちで封印せよ。」
- 17 私は主を待ち望む。ヤコブの家から御顔を隠しておられる方を。私はこの方に望みを置く。

- 18 見よ。私と、主が私に下さった子たちは、シオンの山に住む万軍の主からのイスラエルでのしるしとなり、また不思議となっている。
- 19 人々があなたがたに「霊媒や、ささやき、うめく口寄せに尋ねよ」と言っても、民は自分の神に尋ねるべきではないのか。生きている者のために、死人に尋ねなければならないのか。
- 20 ただ、みおしえと証しに尋ねなければならない。もし、このことばにしたがって語らないなら、その人に夜明けはない。
- 21 その人は迫害され、飢えて国を歩き回り、飢えて怒りに身を委ねる。顔を上に向け、自分の王と神を呪う。
- 22 彼が地を見ると、見よ、苦難と暗闇、苦悩の闇、暗黒、追放された者。

## 第9章

- 1 しかし、苦しみのあったところに闇がなくなる。先にはゼブルンの地とナフタリの地は辱めを受けたが、後には海沿いの道、ヨルダンの川向こう、異邦の民のガリラヤは栄誉を受ける。
- 2 闇の中を歩んでいた民は大きな光を見る。死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が輝く。
- 3 あなたはその国民を増やし、その喜びを増し加えられる。彼らは、刈り入れ時に喜ぶように、分捕り物を分けるときに楽しむように、あなたの御前で喜ぶ。
- 4 あなたが、彼が負うくびきと肩の杖、彼を追い立てる者のむちを、ミディアンの日になされたように打ち碎かれるからだ。
- 5 まことに、戦場で履いたすべての履き物、血にまみれた衣服は焼かれて、火の餌食となる。
- 6 ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。
- 7 その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に就いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これを支える。今よりとこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。
- 8 主はヤコブに一つのことばを送られる。それはイスラエルに下る。
- 9 この民、エフライムとサマリアに住む者たちはみなそれを知り、高ぶり、思い上がって言う。
- 10 「れんがが落ちたから、切り石で建て直そう。いちじく桑の木が切り倒されたから、杉の木でこれに代えよう。」
- 11 そこで主はレツインに敵対する者たちをのし上がらせ、その敵たちをあおりたてる。
- 12 東からはアラムが、西からはペリシテ人が、その口いっぱいイスラエルを食らう。それでも御怒りは収まらず、なおも御手は伸ばされている。
- 13 しかし、この民は自分を打った方に帰らず、万軍の主を求めない。
- 14 そこで主はイスラエルから、かしらも尾も、なつめ椰子の葉も葦も一日のうちに断ち切られる。
- 15 そのかしらとは長老や身分の高い者。その尾とは偽りを教える預言者。
- 16 この民を導く者は迷わす者となり、彼らに導かれる者は惑わされる者となる。

- 17 それゆえ、主はその若い男たちを喜ばず、そのみなしごも、やもめも、あわれまない。皆が神を敬わず、悪を行い、すべての口が愚かなことを語っているからだ。それでも御怒りは収まらず、なおも御手は伸ばされている。
- 18 まことに、悪は火のように燃えさかり、茨とおどろをなめ尽くし、林の茂みに燃えついて、煙となって巻き上がる。
- 19 万軍の主の激しい怒りによって地は焼かれ、民は火の餌食のようになり、だれも互いにいたわり合わない。
- 20 右にかぶりついても、なお飢え、左に食らいついても、満たされず、それぞれ自分の腕の肉を食らう。
- 21 マナセはエフライムを、エフライムはマナセを、そして彼らはともにユダを敵とする。それでも御怒りは収まらず、なおも御手は伸ばされている。

## 第10章

- 1 わざわいだ。不義の掟を制定する者、不当な判決を書いている者たち。
- 2 彼らは弱い者の訴えを退け、私の民のうちの貧しい者の権利をかすめる。こうして、やもめは彼らの餌食となり、みなしごたちは奪い取られる。
- 3 訪れの日、遠くから嵐が来るときに、あなたがたはどうするのか。だれに助けを求めて逃げ、どこに自分の栄光を残すのか。
- 4 ただ、捕らわれ人の足もとに膝をつき、殺された者たちのそばに倒れるだけだ。それでも御怒りは収まらず、なおも御手は伸ばされている。
- 5 「ああ、アッシリア、わたしの怒りのむち。わたしの憤りの杖は彼らの手にある。
- 6 わたしは、これを神を敬わない国に送り、わたしが激しく怒る民を襲えと、これに命じる。物を分捕らせ、獲物を奪わせ、道端の泥のように、これを踏みにじらせる。
- 7 しかし、彼自身はそうとは思わず、彼の心もそうは考えない。彼の心にあるのは滅ぼすこと、少なからぬ国々を絶ち滅ぼすことだ。
- 8 というのは、彼がこう思っているからだ。『私の高官たちはみな王ではないか。
- 9 カルノもカルケミシュのよう、ハマテもアルパデのようではないか。サマリアもダマスコのようではないか。
- 10 エルサレム、サマリアにまさる刻んだ像を持つ、偽りの神々の王国を私が手に入れたように、
- 11 私はサマリアとその偽りの神々にしたように、エルサレムとその多くの偶像にも同じようにしないだろうか』と。」
- 12 主はシオンの山、エルサレムで、ご自分のすべてのわざを成し遂げるとき、アッシリアの王の思い上がった心の果実、その高ぶる目の輝きを罰せられる。
- 13 それは彼がこう言ったからである。「私は自分の手の力でやった。私の知恵でやった。私は賢いからだ。私が諸国の民の境を取り払い、彼らの蓄えを奪い、全能者のように住民をおとしめた。
- 14 私の手は、諸国の民の財宝を巢のようにつかみ、私は、見捨てられた卵を集めるように地のすべてのものを集めたが、翼をはためかす者も、口を大きく開ける者も、鳴く者もいなかった。」

- 15 斧は、それを使って切る人に向かって 高ぶることができるだろうか。 のこぎりは、それをひく人に向かって おごることができるだろうか。 それは、むちが、それを振り上げる人を動かし、杖が、木ではない人間を持ち上げるようなものではないか。
- 16 それゆえ、万軍の主、主は その最も肥え太った者たちをやつれさせ、 その栄光のもとで、炎が燃え上がる。
- 17 イスラエルの光は火となり、 その聖なる方は炎となる。 燃え上がって、そのおどろと茨を一日のうちになめ尽くす。
- 18 主はその美しい林も果樹園も、 また、 たましいも、 からだも滅ぼし尽くし、 それは病人が瘦せ衰えるときのようになる。
- 19 その林の木の残りは数えるほどになり、 子どもでもそれらを書き留められる。
- 20 その日になると、 イスラエルの残りの者、 ヤコブの家の逃れの者は、 もう二度と自分を打つ者に頼らず、 イスラエルの聖なる方、 主に真実をもって頼る。
- 21 残りの者、 ヤコブの残りの者は、 力ある神に立ち返る。
- 22 たとえ、 あなたの民イスラエルが海の砂のようであっても、 その中の残りの者だけが帰って来る。 壊滅は定められ、 義があふれようとしている。
- 23 すでに定められた全滅を、 万軍の神、 主は、 全地のただ中で起こそうとしておられる。
- 24 それゆえ、 万軍の神、 主はこう言われる。「シオンに住むわたしの民よ、 アッシリアを恐れるな。 彼がむちであなたを打ち、 エジプトがしたように杖をあなたに振り上げても。
- 25 もうほんの少しでわたしの憤りは終わり、 わたしの怒りは彼らを滅ぼしてしまうから。
- 26 オレブの岩でミディアンを打ったときのように、 万軍の主が彼にむちを振り上げる。 杖を海にかざして、 エジプトにしたようにそれを上げる。
- 27 その日になると、 彼の重荷はあなたの肩から、 彼のくびきはあなたの首から除かれる。 くびきは脂肪のゆえに外される。」
- 28 彼はアヤテに着き、 ミグロンを過ぎ、 ミクマスに荷を置く。
- 29 彼らは峠を過ぎ、 ゲバで野営する。 ラマはおののき、 サウルのギブアは逃げる。
- 30 娘ガリムよ、 甲高く叫べ。 よく聞け、 ライシャよ。 哀れなアナトテ。
- 31 マデメナは逃げ去り、 ゲビムの住民は避難する。
- 32 その日のうちに彼はノブで立ちとどまり、 娘シオンの山、 エルサレムの丘に向かって 手を振り上げる。
- 33 見よ、 万軍の主、 主が 恐ろしい勢いで枝を切り払われる。 丈の高いものは切り倒され、 そびえたものは低くなる。
- 34 主は林の茂みを鉄の斧で切り倒し、 レバノンに力強い方によって倒される。

## 第11章

- 1 エッセイの根株から新芽が生え、 その根から若枝が出て実を結ぶ。
- 2 その上に主の霊がとどまる。 それは知恵と悟りの霊、 思慮と力の霊、 主を恐れる、 知識の霊である。
- 3 この方は主を恐れることを喜びとし、 その目の見るところによってさばかず、 その耳の聞くところによって判決を下さず、

- 4 正義をもって弱い者をさばき、公正をもって地の貧しい者のために判決を下す。口のむちで地を打ち、唇の息で悪しき者を殺す。
- 5 正義がその腰の帯となり、真実がその胸の帯となる。
- 6 狼は子羊とともに宿り、豹は子やぎとともに伏し、子牛、若獅子、肥えた家畜がともにいて、小さな子どもがこれを追って行く。
- 7 雌牛と熊は草をはみ、その子たちはともに伏し、獅子も牛のように藁を食う。
- 8 乳飲み子はコブラの穴の上で戯れ、乳離れした子は、まむしの巢に手を伸ばす。
- 9 わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を加えず、滅ぼさない。主を知ることが、海をおおう水のように地に満ちるからである。
- 10 その日になると、エッセイの根はもろもろの民の旗として立ち、国々は彼を求め、彼のとどまるところは栄光に輝く。
- 11 その日、主は再び御手を伸ばし、ご自分の民の残りの者を買取られる。彼らは、アッシリア、エジプト、パテロス、クシュ、エラム、シンアル、ハマテ、海の島々に残っている者たちである。
- 12 主は国々のために旗を揚げ、イスラエルの散らされた者を取り集め、ユダの追い散らされた者を地の四隅から集められる。
- 13 エフライムのねたみは去り、ユダに敵する者は断ち切られる。エフライムはユダをねたまず、ユダもエフライムを敵としない。
- 14 彼らは西の方、ペリシテ人の肩に飛びかかり、ともに東の子らからかすめ奪う。彼らはエドムとモアブにも手を伸ばし、アンモン人も彼らに従う。
- 15 主はエジプトの海の入江を干上がらせ、また、その焼けつく風の中で御手をその川に向かって振り動かし、それを打って七つの水無し川とし、履き物のままで歩けるようにする。
- 16 残されている御民の残りの者のためにアッシリアから大路が備えられる。イスラエルがエジプトの地から上って来た日に、イスラエルのために備えられたように。

## 第12章

- 1 その日、あなたは言う。「主よ、感謝します。あなたは私に怒られたのに、あなたの怒りは去り、私を慰めてくださったからです。」
- 2 見よ、神は私の救い。私は信頼して恐れない。ヤハ、主は私の力、私のほめ歌。私のために救いとなられた。
- 3 あなたがたは喜びながら水を汲む。救いの泉から。
- 4 その日、あなたがたは言う。「主に感謝せよ。その御名を呼び求めよ。そのみわざを、もろもろの民の中に知らせよ。御名があがめられていることを語り告げよ。
- 5 主をほめ歌え。主はすばらしいことをされた。これを全地に知らせよ。
- 6 シオンに住む者よ。大声をあげて喜び歌え。イスラエルの聖なる方は、あなたの中におられる大いなる方。」

## 第13章

- 1 バビロンについての宣告。これはアモツの子イザヤが見たものである。

- 2 「はげ山の上に旗を掲げ、彼らに向かって声をあげ、手を振って、彼らを貴族の門に入らせよ。
- 3 わたしは、わたしに聖別された者たちに命じ、また、わが怒りを晴らす勇士たち、わが威光に歡喜する者たちを呼び集めた。」
- 4 おびたしい民にも似た、山々のとどろく音、集まって来る国々、王国のどよめく音がする。万軍の主が軍隊を召集しておられるのだ。
- 5 彼らは遠い地から、天の果てからやって来る。全世界を滅ぼすための、主とその憤りの器だ。
- 6 泣き叫べ。主の日は近い。それは全能者からの破壊としてやって来る。
- 7 それゆえ、すべての者は氣力を失い、すべての人の心は萎える。
- 8 彼らはおじ惑い、子を産む女が身もだえするように、苦しみと激しい痛みが彼らを襲う。彼らは炎のような顔で互いに驚く。
- 9 「見よ、主の日が来る。憤りと燃える怒りの、残酷な日が。地は荒廃に歸し、主は罪人どもをそこから根絶やしにする。
- 10 天の星、天のオリオン座はその光を放たず、太陽は日の出から暗く、月もその光を放たない。
- 11 わたしは、世界をその悪のゆえに罰し、悪しき者をその咎のゆえに罰する。不遜な者の誇りをくじき、横暴な者の高ぶりを低くする。
- 12 わたしは人を純金よりも、人間をオフィルの金よりも尊くする。
- 13 それゆえ、わたしは天を震わせる。大地はその基から揺れ動く。万軍の主の憤りによって、その燃える怒りの日に。
- 14 追い立てられた、かもしかのように、集める者のいない羊の群れのようになって、彼らはそれぞれ自分の民の方に向かい、それぞれ自分の地へ逃げ去る。
- 15 見つけられた者は、みな刺し殺され、連れて行かれた者は、みな剣に倒れる。
- 16 彼らの幼子たちは目の前で八つ裂きにされ、家は略奪され、妻は犯される。
- 17 見よ、わたしは彼らに対してメディア人を奮い立たせる。彼らは銀をものともせず、金さえ喜ばず、
- 18 その弓は若者たちを撃ち倒す。彼らは胎の実さえあわれみせず、子どもたちにさえあわれみをかけない。
- 19 こうして、諸王国の誉れ、カルデア人の輝かしい誇りであるバビロンは、神がソドム、ゴモラを滅ぼしたときのようになる。
- 20 そこには永久に住む者もなく、代々にわたり、住みつく者もない。アラビア人もそこには天幕を張らず、牧者たちもそこに群れを伏させない。
- 21 そこには荒野の獣が伏し、彼らの家々には、みみずくがあふれる。そこには、だちょうも住み、雄やぎがそこで飛び跳ねる。
- 22 山犬はその砦で、ジャッカルは豪華な宮殿でほえ交わす。その時が来るのは近く、その日はもう延ばされることはない。」

## 第14章

- 1 まことに、主はヤコブをあわれみ、再びイスラエルを選んで、彼らを自分たちの土地に憩わせる。寄留者も彼らに連なり、ヤコブの家に加わる。
- 2 諸国の民は彼らを迎え、彼らのところに導き入れる。イスラエルの家は主の土地で、その寄留者を男奴隷、女奴隷として所有し、自分たちを捕らえた者を捕らわれ人にし、自分たちを追い立てた者を支配するようになる。
- 3 主が、あなたの痛み、あなたへの激しい怒りを除き、あなたに負わせた過酷な労役を解いて、あなたを憩わせる日に、
- 4 あなたはバビロンの王について、このような嘲りの歌を歌って言う。「虐げる者はどのようにして果てたのか。横暴はどのようにして終わったのか。
- 5 主が悪しき者の杖を、支配者の笏を折られたのだ。
- 6 彼は激怒して諸国の民を討ち、絶え間なく彼らを討ち、怒って国々を容赦なく虐げて支配したものだっが。
- 7 全地は安らかに憩い、喜びの歌声をあげる。
- 8 もみの木もレバノンの杉も、おまえのことを喜ぶ。『おまえが倒れ伏したときから、もう私たちを切り倒す者は上って来ない。』
- 9 よみは、下界でおまえが来るのを迎えようとざわめき、死者の霊たち、地のすべての指導者たちを揺り起こし、国々のすべての王をその王座から立ち上がらせる。
- 10 彼らはみな、おまえに告げる。『おまえもまた、私たちのように弱くされ、私たちに似た者になった。』
- 11 おまえの誇り、おまえの琴の音はよみに落とされ、おまえの下には、うじ虫が敷かれ、虫けらがおまえの覆いとなる。
- 12 明けの明星、暁の子よ。どうしておまえは天から落ちたのか。国々を打ち破った者よ。どうしておまえは地に切り倒されたのか。
- 13 おまえは心の中で言った。『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、北の果てにある会合の山で座に着こう。
- 14 密雲の頂に上り、いと高さ方のようになろう。』
- 15 だが、おまえはよみに落とされ、穴の底に落とされる。
- 16 おまえを見る者は、おまえを見つめ、おまえについて思いを巡らす。『この者が、地を震えさせ、王国を震え上がらせ、
- 17 世界を荒野のようにし、町々を壊し、捕虜たちを家に帰さなかった者なのか。』
- 18 諸国のすべての王たちはみな、それぞれ自分の墓で、尊ばれて眠っている。
- 19 しかしおまえは、忌み嫌われる枝のように、墓の外に投げ捨てられる。剣で刺し殺された者たちで、おまえはおおわれ、屍のように、墓穴に下る者たちに踏みつけられる。
- 20 おまえは墓の中で彼らとともにすることはない。自分の地を滅ぼし、自分の民を虐殺したからだ。悪を行う者どもの子孫は永久に、その名を呼ばれることはない。
- 21 彼の子らのために屠り場を備えよ。先祖の咎のためだ。彼らが立って地を占領し、世界の面を町々で満たさないように。」

- 22 「わたしは彼らに向かって立ち上がる。一万軍の主のことば—わたしはバビロンから、その名も、残った者も、子孫も末裔も絶ち滅ぼす。—主のことば—
- 23 わたしはこれを針ねずみの領地、水のある沢とし、滅びのほうきで一掃する。一万軍の主のことば。」
- 24 万軍の主は誓って言われた。「必ず、わたしの考えたとおりに事は成り、わたしの図ったとおりに成就する。
- 25 わたしはアッシリアをわたしの地で打ち破り、わたしの山で踏みつける。アッシリアのくびきは彼らの上から除かれ、その重荷は彼らの肩から除かれる。」
- 26 これが、全地に対して立てられた計画。これが、万国に対して伸ばされた御手。
- 27 万軍の主が計画されたことを、だれがくつがえせるだろうか。御手が伸ばされている。だれがそれを押し戻せるだろうか。
- 28 アハズ王が死んだ年、この宣告があった。
- 29 「喜ぶな、ペリシテの全土よ。おまえを打った杖が折られたからといって。蛇の根からまむしが出て、その実は、飛び回る燃える蛇となるのだから。
- 30 弱い者たちの長子は養われ、貧しい者は安らかに伏す。しかし、わたしはおまえの根を飢えで死なせる。おまえの残りの者は殺される。
- 31 門よ、泣き叫べ。町よ、叫べ。ペリシテの全土は震えおののけ。北から煙が上がり、その編隊から落伍する者がいないからだ。
- 32 異邦の使者たちにどう答えるべきか。『主がシオンの礎を据えられたのだ。主の民の苦しむ者たちは、ここに身を避ける。』」

## 第15章

- 1 モアブについての宣告。「ああ、一夜のうちにアルは荒らされ、モアブは滅び失せる。ああ、一夜のうちにキルは荒らされ、モアブは滅び失せる。
- 2 モアブは宮に、ディボンは高き所に、泣くために上る。ネボとメデバのことでモアブは泣き叫ぶ。頭をみな剃り落とし、ひげもみな切り落として。
- 3 その通りでは、腰に粗布をまとい、その屋上や広場では、みな涙を流して泣き叫ぶ。
- 4 ヘシュボンとエルアレは叫び、その叫び声がヤハツまで聞こえる。それゆえ、モアブの武装した者たちはわめく。そのたましいはわななく。
- 5 わたしの心はモアブのために叫ぶ。逃げ延びる者たちはツォアルまで、エグラテ・シェリシヤまで逃れる。ああ、彼らはルヒテの坂を泣きながら登り、ホロナイムへの道で破滅の叫びをあげる。
- 6 ああ、ニムリムの水は荒廃した地となり、草は枯れ、若草も尽き果てて、緑もなくなる。
- 7 それゆえ彼らは、残っていた物や蓄えていた物を、アラビム川を越えて運んで行く。
- 8 ああ、叫び声がモアブの領土に響き渡り、その泣き声がエグライムまで、その泣き声がベエル・エリムまで届く。
- 9 ああ、ディモンの水は血で満ちる。わたしはさらに、ディモンにわざわざをもたらす。モアブの逃れた者、その土地に残った者に、一頭の獅子を。」

## 第16章

- 1 「おまえたちは、子羊をこの国の支配者に送れ。セラから荒野を経て、娘シオンの山に。
- 2 モアブの娘たちはアルノンの渡し場で、巣から放り出されて、逃げ惑う鳥のようになる。」
- 3 「あなたは、助言を与え、事を決めよ。昼のさなかにも、あなたの影を夜のようにせよ。散らされた者をかくまい、逃れて来る者を渡すな。
- 4 あなたの中にモアブの散らされた者を宿らせ、荒らす者から逃れる者の隠れ家となれ。虐げる者が死んで破壊も終わり、踏みつける者が地から消え失せるとき、
- 5 一つの王座が恵みによって堅く立てられる。ダビデの天幕で真実をもってそこに座すのは、さばきをし、公正を求め、速やかに義を行う者。
- 6 われわれはモアブの高ぶりを聞いた。彼は実に高慢だ。その誇りと高ぶりと不遜さ、その自慢話は正しくない。
- 7 それゆえ、モアブはモアブ自身のために泣き叫び、すべての者が泣き叫ぶ。ただ打ちのめされて、キル・ハレセテの干しぶどうの菓子のために嘆く。
- 8 ヘシュボンの畑もシブマのぶどうの木も枯れた。国々の主たちがその房を打ったのだ。その房はヤゼルに達し、荒野を巡り、つるは伸びて海を越えていたのに。
- 9 それゆえ、わたしはヤゼルのために、シブマのぶどうの木のために泣く。ヘシュボンとエルアレよ、わたしはわたしの涙でおまえをぬらす。おまえの夏の果物と収穫を喜ぶ声が絶えてしまったからだ。
- 10 喜びと楽しみは果樹園から取り去られる。ぶどう畑の中で喜び歌うこともなく、大声で叫ぶこともない。踏み場でぶどう踏みをする者も、もう踏まない。わたしが喜びの声を絶えさせたのだ。
- 11 それゆえ、わたしのはらわたはモアブのために、わたしの内臓はキル・ヘレスのために、豎琴のようにわななく。
- 12 モアブが高き所に詣でて、そこで身が疲れ果てるまでのことをしても、その聖所に入って祈っても、何にもならない。」
- 13 これが、以前から主がモアブについて語っておられたことばである。
- 14 今や主は次のように告げられる。「雇い人の年季と同じ三年のうちに、モアブの栄光は、そのおびただしい数の群衆とともに軽んじられ、残った者もしばらくすれば力がなくなる」と。

## 第17章

- 1 ダマスコについての宣告。「見よ。ダマスコは取り去られて都でなくなり、瓦礫の山となる。
- 2 アロエルの町々は捨てられて家畜の群れのものとなり、群れはそこに伏して、それを脅かす者はいなくなる。
- 3 エフライムは要塞を失い、ダマスコは王国を失う。アラムの残った者はイスラエルの子らの栄光のようになる。一万軍の主のことば。
- 4 その日、ヤコブの栄光は衰え、その肥えた肉は痩せ細る。
- 5 刈り入れ人が立ち穂を集めて、その腕に穂を刈り入れるときのように。レファイムの谷で落ち穂を拾うときのように。

- 6 オリーブを打ち落とすときのように、取り残しの実が中に残される。こずえには二つ三つの熟れた実が、実りの多い枝には四つ五つが残される。―イスラエルの神、主のことば。」
- 7 その日、人は自分を造った方に目を留め、その目はイスラエルの聖なる方を見る。
- 8 自分の手で造った祭壇に目を留めず、自分の指で造った物、アシェラ像や香の台は見ない。
- 9 その日、その堅固な町々は、森の中の見捨てられた場所、かつてイスラエル人によって見捨てられた山の頂のようになって、荒れ果てる。
- 10 あなたが救いの神を忘れ、あなたの力の岩を覚えていなかったからだ。それゆえ、あなたが好ましい植木を植え、他国のぶどうのつるをさしても、
- 11 あるいは、あなたが植えた日にそれを生長させ、朝のうちに種を芽生えさせても、病と癒やしがたい痛みの日には、その収穫は消え去る。
- 12 ああ、多くの国々の民のざわめき。彼らは、海のざわめきのようにざわめく。ああ、国民のどよめき。彼らは、激流のどよめきのようにどよめく。
- 13 国民は、大水のどよめきのようにどよめく。しかしそれは、叱りつけると遠くへ逃げる。山の上で風に吹かれる籾殻のように、つむじ風の前でうず巻くちりのように、彼らは吹き飛ばされる。
- 14 夕暮れには、見よ、突然の恐怖。夜明け前に彼らはいなくなる。これこそ、私たちから奪い取る者たちの取り分、私たちをかすめ奪う者たちが受ける割り当て。

## 第18章

- 1 ああ、羽コオロギの国よ。この国はクシュの幾多の川のかなたにあり、
- 2 パピルスパピルスの船を水に浮かべて、海路で使いを送る。すばやい使者よ、行け。背が高く肌の滑らかな国民のところへ。あちこちで恐れられている民のところへ。その国土を多くの川が分けている、力強い、踏みにじる国へ。
- 3 世界のすべての住民よ。地に住むすべての者よ。山々に旗が揚がる時は見よ。角笛が吹き鳴らされるときは聞け。
- 4 主が私にこう言われたからだ。「わたしは静まり、わたしのところから眺める。照りつける日差しの暑さのように、刈り入れ時の暑さの中の雨雲のように。」
- 5 刈り入れの前、花が終わって、花房が熟したぶどうになるとき、人はその枝を鎌で切り、そのつるを取って除き去るからだ。
- 6 それらはみなともに、山々の猛禽や野獣のために投げ捨てられる。猛禽はその上で夏を過ごし、野獣はみな、その上で冬を過ごす。
- 7 そのとき、背が高く肌の滑らかな民、あちこちで恐れられている民、その国土を多くの川が分けている、力強い踏みにじる国民から、万軍の主の名のある場所、シオンの山へ、万軍の主のために贈り物が運ばれて来る。

## 第19章

- 1 エジプトについての宣告。見よ。主は速い密雲に乗ってエジプトに来られる。エジプトの偽りの神々はその前にわななき、エジプト人の心も真底から萎える。

- 2 「わたしはエジプト人を駆り立てて、エジプト人にはむかわせる。彼らは、兄弟は兄弟と、友人は友人と、町は町と、王国は王国と争い合う。
- 3 エジプトの霊は其中で衰える。わたしがその計画をかき乱すと、彼らは偽りの神々や死霊、霊媒や口寄せに伺いを立てる。
- 4 わたしはエジプト人を 厳しい主人の手に引き渡す。力ある王が彼らを治める。一万軍の主、主のことば。」
- 5 海の水は乾き、川は干上がり、涸れる。
- 6 多くの運河は臭くなり、エジプトの川は、水かさが減って干上がり、葦や、い草も枯れ果てる。
- 7 ナイル川とその河口の水草も。その川の種床もみな涸れて、吹き飛ばされて何も無い。
- 8 漁師たちは悲しみ、ナイル川で釣りをする者もみな嘆き、水の上に網を打つ者も打ちしおれる。
- 9 梳いた亜麻を扱う職人や 白布を織る者は恥を見、
- 10 この国の機織人たちは碎かれ、雇われて働く者はみな心を痛める。
- 11 ツォアンの首長たちは全く愚か者だ。ファラオの知恵ある助言者たちも 愚かなはかりごとをめぐらす。どうして、あなたがたはファラオに向かって「私は知恵ある者の子、昔の王たちの子です」と言えるのか。
- 12 あなたの知恵ある者たちは、いったいどこにいるのか。彼らがあなたに告げ、知らせればよい。万軍の主がエジプトに何を計画されたかを。
- 13 ツォアンの首長たちは愚かになり、メンフィスの首長たちは惑わされた。自分の諸族のかしらたちが エジプトをよろめかせたのだ。
- 14 主がエジプトの中に 混乱の霊を吹き入れられたので、彼らは、そのあらゆる行いによって エジプトをよろめかせる。まるで酔いどれが吐きながらよろめくように。
- 15 頭も尾も、なつめ椰子の葉も葦も、エジプト人のために、なすべきわざがない。
- 16 その日、エジプト人は女のようになり、万軍の主が自分たちに向かって振り上げる御手の前に、恐れおののく。
- 17 ユダの地はエジプトにとって恐怖となる。これを思い出す者はみな、万軍の主がエジプトに対して 図る計画のゆえにおののく。
- 18 その日、エジプトの地には、カナン語を話し、万軍の主の誓いを立てる五つの町が起こる。その一つは、イル・ハ・ヘレスと言われる。
- 19 その日、エジプトの地の真ん中には主のために一つの祭壇が建てられ、その国境のそばには主のために一つの石の柱が立てられる。
- 20 それはエジプトの地で、万軍の主のしるしとなり、証しとなる。彼らが虐げられて主に叫ぶと、主は彼らのために戦い、彼らを救い出す救い主を送られる。
- 21 そのようにして主はエジプト人にご自分を示し、その日、エジプト人は主を知る。そしていけにえとささげ物をもって仕え、主に誓願を立ててこれを果たす。
- 22 主はエジプト人を打ち、打って彼らを癒やされる。彼らが主に立ち返れば、彼らの願いを聞き入れ、彼らを癒やされる。
- 23 その日、エジプトからアッシリアへの大路ができ、アッシリア人はエジプトに、エジプト人はアッシリアに行き、エジプト人はアッシリア人とともに主に仕える。

- 24 その日、イスラエルはエジプトとアッシリアと並ぶ第三のものとなり、大地の真ん中で祝福を受ける。
- 25 万軍の主は祝福して言われる。「わたしの民エジプト、わたしの手で造ったアッシリア、わたしのゆずりの民イスラエルに祝福があるように。」

## 第20章

- 1 アッシリアの王サルゴンによって派遣されたタルタンが、アシュドデに来て、アシュドデと戦って、これを攻め取った年のこと。
- 2 当時、主はアモツの子イザヤによって、すでにこう語っておられた。「行って、あなたの腰の粗布を解き、あなたの足の履き物を脱げ。」彼はそのようにし、裸になり、裸足で歩いていた。
- 3 主は言われた。「わたしのしもベイザヤが、エジプトとクシュに対するしるし、また前兆として、三年間裸になり、裸足で歩いたように、
- 4 そのように、アッシリアの王はエジプトの捕虜とクシュの捕囚の民を、若い者も年寄りも裸にして、裸足のまま、尻をあらわにして、エジプトの恥をさらしたまま連れて行く。
- 5 人々は、クシュを頼みとし、エジプトを誇りとしていたゆえに、打ちのめされ、また恥を見る。
- 6 その日、この海辺の住民は言う。『見よ。アッシリアの王の前から逃れようと、助けを求めて逃げて来たわれわれの拠り所がこの始末だ。われわれは、どうして助かることができるだろうか』と。」

## 第21章

- 1 海の荒野についての宣告。ネゲブに吹きまくるつむじ風のように、それは荒野から、恐ろしい地からやって来る。
- 2 厳しい幻が私に示された。裏切る者は裏切り、荒らす者は荒らす。エラムよ、上れ。メディアアよ、囲め。すべての嘆きを私は終わらせる。
- 3 それゆえ、戦慄が私の腰に満ち、子を産む時のような苦しみが私をとらえる。私は心乱れて、聞くことができない。恐ろしさのあまり、見ることができない。
- 4 私の心は迷い、戦慄が私を襲った。私が恋い慕ったたそがれも、私をおびえさせるものとなった。
- 5 彼らは食卓を整え、座席を並べて、食べたり飲んだりしている。「立ち上がれ、首長たち。盾に油を塗れ。」
- 6 主は私にこう言われた。「さあ、見張りを立たせ、見たことを告げさせよ。
- 7 戦車や二列に並んだ騎兵、ろばに乗る者やらくだに乗る者を見たなら、よく注意を払わせよ。」
- 8 その人は、獅子のように叫んだ。「主よ。私は昼はいつも見張り場に立ち、夜ごとに自分の物見のやぐらについています。
- 9 見てください。今、戦車や兵士、二列に並んだ騎兵が来ます。彼らは互いに言っています。『倒れた。バビロンは倒れた。その国の神々の、すべての刻んだ像も地に打ち砕かれた』

と。」

- 10 踏みにじられた私の民、打ち場の私の子らよ。イスラエルの神、万軍の主から聞いたことを、私はあなたがたに告げたのだ。
- 11 ドマについての宣告。セイルから私に叫ぶ者がある。「夜回りよ、今は夜の何時か。夜回りよ、今は夜の何時か。」
- 12 夜回りは言った。「朝は来る。また夜も来る。尋ねたければ尋ねよ。もう一度、来るがよい。」
- 13 アラビアについての宣告。デダン人の隊商よ、アラビアの林に宿れ。
- 14 テマの地の住民よ、渴いている者を迎えて水をやれ。逃れて来た者にパンを与えよ。
- 15 彼らは剣や抜き身の剣から、張られた弓や激しい戦いから逃れて来たのだから。
- 16 まことに、主は私にこう言われる。「雇い人の年季のように、もう一年でケダルのすべての栄光は尽きる。
- 17 ケダル人の勇士たちで、残る射手は数少なくなる。」まことに、イスラエルの神、主が告げられる。

## 第22章

- 1 幻の谷についての宣告。これは、いったいどうしたことか。みな屋根に上ったりして。
- 2 喧噪に満ちた騒がしい町、おごった都よ。おまえのうちの殺された者たちは、剣で刺し殺されたのでもなく戦死したのでもない。
- 3 おまえの首領たちは、こぞって逃げたが、弓を引かないうちに捕らえられた。おまえのうちの見つけられた者は、遠くへ逃げ去ったが、みな捕らえられた。
- 4 それゆえ、私は言う。「私から目をそらせ。私は激しく泣きたい。私の民、この娘の破滅のことで、無理に私を慰めるな。」
- 5 なぜなら、恐慌と蹂躪と混乱の日が、万軍の神、主から来るからだ。幻の谷には、城壁の崩壊、山に向かっての叫び。
- 6 エラムは矢筒を負い、戦車と兵士と騎兵を引き連れ、キルは盾の覆いを外した。
- 7 おまえの最も美しい平地は戦車で満ち、騎兵は城門に立ち並んだ。
- 8 こうして主はユダの覆いを除かれた。その日、おまえは森の宮殿の武器に目を向けた。
- 9 おまえたちはダビデの町に破れが多いのを見て、下の池の水を集めた。
- 10 また、エルサレムの家々を数え、その家々を取り壊して城壁を補強し、
- 11 二重の城壁の間に貯水池を造って古い池の水を引いた。しかし、おまえたちはこれを造った方には目もくれず、遠い昔にこれを形造った方に目を留めなかった。
- 12 その日、万軍の神、主は呼びかけられた。「泣いて悲しみ、頭を剃って粗布をまとえ。」
- 13 しかし、なんとおまえたちは浮かれ楽しみ、牛を殺し、羊を屠り、肉を食べ、ぶどう酒を飲んで言っている。「飲めよ。食べよ。どうせ明日は死ぬのだ」と。
- 14 万軍の主は私の耳に宣告された。「この咎は、おまえたちが死ぬまで決して赦されることはない。」万軍の神、主はそう言われた。
- 15 万軍の神、主はこう言われる。「さあ、宮廷をつかさどるあの執事シェブナのところに行け。

- 16 『あなたは自分のために、ここに墓を掘った。ここはあなたに何の関わりがあるのか。ここはあなたのだれに関わりがあるのか。高いところに自分の墓を掘ったり、岩に自分の住まいを刻んだりして。
- 17 ああ、勇者よ。主はあなたを遠くに投げやる。あなたをわしづかみにし、
- 18 あなたをまりのように丸めて、広々とした地に投げ捨てる。そこであなたは死ぬ。そこであなたの誇る戦車も。あなたの主人の家の恥さらしよ。
- 19 わたしがあなたをその立場から追放する。あなたは自分の地位から引き降ろされる。
- 20 その日、わたしはわたしのしもべ、ヒルキヤの子エルヤキムを召し、
- 21 彼にあなたの長服を着せ、彼にあなたの飾り帯を締め、彼の手あなたの権威を委ねる。彼はエルサレムの住民とユダの家の父となる。
- 22 わたしはまた、彼の肩にダビデの家の鍵を置く。彼が開くと、閉じる者はなく、彼が閉じると、開く者はない。
- 23 わたしは彼を杭として、確かな場所に打ち込む。彼はその父の家にとって栄光の座となる。
- 24 彼の上に、父の家のすべての栄光がかけられる。子も孫も、すべての小さい器も、鉢からすべての壺に至るまで。
- 25 その日一万軍の主のことば― 確かな場所に打ち込まれた杭は抜き取られ、折られて落ち、その上にかかっていた荷も取り壊される。― 主はそう語られた。』」

## 第23章

- 1 ツロについての宣告。タルシシュの船よ、泣き叫べ。ツロは荒らされて家もなく、そこには入れない。キティムの地から、それは彼らに示される。
- 2 海辺の住民よ、黙れ。海を渡るシドンの商人はおまえを富ませた。
- 3 大海原で、シホルの穀物、ナイルの刈り入れがおまえの収穫となり、おまえは諸国の商いの場となった。
- 4 「シドンよ、恥を見よ」と海が言う。海の岩がこう言っている。「私は産みの苦しみをせず、子を産まず、若い男を育てず、若い女を養ったこともない。」
- 5 このうわさがエジプトに達すると、人々はツロのうわさを聞いて、激しくもだえる。
- 6 海辺の住民よ、タルシシュへ渡って、泣き叫べ。
- 7 これが、おまえたちが誇りとした町なのか。その起こりは古く、人々はその足で遠くに行って移り住んだのに。
- 8 だれが、王冠を戴くツロに対してこれを図ったのか。その商人は君主たちで、その貿易商は地で最も尊ばれていたのに。
- 9 万軍の主がそれを図り、すべての美しい誇りを汚して、地で最も尊ばれている者をみな卑しめられた。
- 10 娘タルシシュよ、ナイル川のように自分の国にあふれよ。もうこれを制する者はいない。
- 11 主は御手を海の上に伸ばし、王国を震わせた。主はカナンについて命令を下し、その岩を滅ぼし尽くした。
- 12 そして言われた。「もう二度と喜び躍るな。虐げられたおとめ、娘シドンよ、立ってキティムに渡れ。そこでも、おまえは休めない。」

- 13 見よ、カルデア人の地を。この民はもはや存在しない。アッシリア人がこれを 荒野の獣のものとして定めた。彼らは、自分の見張りやぐらを立て、宮殿をかすめて、そこを廃墟とした。
- 14 タルシシュの船よ、泣き叫べ。おまえたちの砦が荒らされたからだ。
- 15 その日になると、ツロは七十年の間忘れられる。一人の王の生涯ほどの期間である。七十年が終わると、ツロは遊女の歌のようになる。
- 16 「豎琴を取り、町を巡れ、忘れられた遊女よ。うまく弾け、もっと歌え。思い出してもらうために。」
- 17 七十年の終わりに、主はツロを顧みられる。彼女は再び遊女の報酬を得て、地のすべての王国と、地の面で淫行を行う。
- 18 その儲け、遊女の報酬は、主の聖なるものとなる。それは蓄えられず、積み立てられない。その儲けは、主の前に住む者たちが食べて満ち足り、上等の衣服を着るためのものとなるからだ。

## 第24章

- 1 見よ。主は地を荒れ果てさせ、その面をくつがえして、住民を散らされる。
- 2 民は祭司と等しくなり、男奴隷はその主人と、女奴隷はその女主人と、買い手は売り手と、貸し手は借り手と、債権者は債務者と等しくなる。
- 3 地はすっかり荒れ果て、すべてかすめ奪われる。主がこのことばを語られたからである。
- 4 地は嘆き悲しみ、衰える。世界はしおれ、衰える。地の最も高貴な人たちもしおれる。
- 5 地はその住民の下で汚されている。彼らが律法を犯して定めを変え、永遠の契約を破ったからである。
- 6 それゆえ、のろいは地を食い尽くし、その地の住民は罰を受ける。それゆえ、地の住民は減り、わずかな者だけが残される。
- 7 新しいぶどう酒は嘆き悲しみ、ぶどうの木はしおれ、心に喜びのある者もみな、うめく。
- 8 陽気なタンバリンの音はやみ、はしゃぐ者たちの騒ぎも消え、陽気な豎琴の音もやむ。
- 9 歌いながらぶどう酒を飲むこともなく、強い酒も、飲む者には苦い。
- 10 都は壊されて荒れ地となり、すべての家は閉ざされて入れない。
- 11 街には、ぶどう酒はなく、哀れな叫び声がある。すべての喜びは薄れ、地の楽しみは取り去られる。
- 12 その都にはただ荒廃だけが残り、城門は打ち砕かれて荒れ果てる。
- 13 まことに、大地の真ん中で、諸国の民の間で、オリーブを打ち落とすようなことが、ぶどうの収穫の後に 取り残しの実を集めるようなことが起こる。
- 14 彼らは声をあげて喜び歌い、西の方から主の威光をたたえて叫ぶ。
- 15 それゆえ、東の国々で主をあがめよ。西の島々で、イスラエルの神、主の御名を。
- 16 地の果てから、私たちは、「正しい方に誉れあれ」というほめ歌を聞く。しかし私は言った。「私はだめだ、だめだ。ああ、悲しい。裏切り者が裏切った。裏切り者が裏切り、裏切った。」
- 17 地上の住民よ。恐怖と落とし穴と罠があなたに臨む。

- 18 その恐怖の叫びから逃げる者は、その落とし穴に落ち、落とし穴から這い上がる者は、その罠に捕らえられる。天の窓が開かれ、地の基が震えるからだ。
- 19 地は割れに割れ、地は破れに破れ、地は揺れに揺れる。
- 20 地は酔いどれのようによろめき、仮小屋のように揺れ動く。地の背きはその上に重くのしかかり、地は倒れて、再び起き上がれない。
- 21 その日、主は天では天の大軍を、地では地の王たちを罰せられる。
- 22 彼らは、囚人が地下牢に集められるように集められ、牢獄に閉じ込められ、何年かたった後に罰せられる。
- 23 月は辱めを受け、太陽も恥を見る。万軍の主がシオンの山、エルサレムで王となり、栄光がその長老たちの前にあるからである。

## 第25章

- 1 主よ、あなたは私の神。私はあなたをあがめ、御名をほめたたえます。あなたは遠い昔からの不思議なご計画を、まことに、真実に成し遂げられました。
- 2 あなたは町を石くれの山とし、城壁のある都を廃墟にされたので、他国人の宮殿は町から失せ、もう永久に建てられることはありません。
- 3 それゆえ、力強い民もあなたをほめたたえ、横暴な国々の都もあなたを恐れます。
- 4 あなたは弱っている者の砦、貧しい者の、苦しみのときの砦、嵐のときの避け所、暑さを避ける陰となられました。横暴な者たちの息は、壁に吹きつける嵐のようです。
- 5 砂漠の日照りのように、あなたは他国人の騒ぎを抑えられます。暑さが濃い雲の陰で鎮まるように、横暴な者たちの歌は鎮められます。
- 6 万軍の主は、この山の上で万民のために、脂の多い肉の宴会、良いぶどう酒の宴会、髓の多い脂身とよくこされたぶどう酒の宴会を開かれる。
- 7 この山の上で、万民の上をおおうべールを、万国の上にかぶさる覆いを取り除き、
- 8 永久に死を呑み込まれる。神である主は、すべての顔から涙をぬぐい取り、全地の上からご自分の民の恥辱を取り除かれる。主がそう語られたのだ。
- 9 その日、人は言う。「見よ。この方こそ、待ち望んでいた私たちの神。私たちを救ってください。この方こそ、私たちが待ち望んでいた主。その御救いを楽しみ喜ぼう。」
- 10 主の手がこの山にとどまるとき、モアブはそこで踏みつけられる。藁が汚水の中で踏みつけられるように。
- 11 泳ぐ人が泳ごうとして手を伸ばすように、モアブはその中で手を伸ばす。しかし主は、その手の巧みさも、その高ぶりも低くされる。
- 12 おまえの要塞、そそり立つ城壁を主は引き倒して、低くし、地に投げつけて、ちりにまでされる。

## 第26章

- 1 その日、ユダの地でこの歌が歌われる。私たちには強い都がある。神はその城壁と塁で私たちを救ってください。
- 2 城門を開けて、忠誠を尽くす正しい民を入らせよ。

- 3 志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。その人があなたに信頼しているからです。
- 4 いつまでも主に信頼せよ。ヤハ、主は、とこしえの岩だから。
- 5 主は高い所、そびえ立つ都に住む者を引き倒し、その都を低くして、地にまで下らせ、これを投げつけて、ちりにまで下らされる。
- 6 足がこれを踏みつける。苦しむ者の足、弱い者の足の裏が。
- 7 正しい人の行く道は平らです。あなたは正しい人の道をならし、平らにされます。
- 8 主よ。まことに、あなたのさばきの道で私たちはあなたを待ち望みます。あなたの御名、あなたの呼び名は私のたましいの望みです。
- 9 私のたましいは、夜にあなたを慕います。まことに、私の内なる霊はあなたを切に求めます。まことに、あなたのさばきが地に行われるとき、世界の住民は義を学びます。
- 10 悪しき者は、恵みを受けても義を学びません。公正の地にあっても不正を行い、主のご威光を見ようとしません。
- 11 主よ。あなたの御手が上げられても、彼らは見ようとしません。どうか彼らが、この民へのあなたの熱心を見て、恥じますように。まことに火が、あなたに逆らう者をなめ尽くしますように。
- 12 主よ。あなたは私たちのために平和を備えてくださいます。まことに、私たちのすべてのわざも、あなたが私たちのためになさったことです。
- 13 私たちの神、主よ。あなた以外の多くの君主が私たちを治めました。私たちはただあなただけを、あなたの御名を呼び求めます。
- 14 彼らは死人であって、生き返りません。彼らは死者の霊であって、よみがえりません。それゆえ、あなたは彼らを罰して根絶やしにし、彼らについての記憶をすべて消し去られました。
- 15 主よ。あなたはこの国民を増し加えられました。この国民を増し加え、ご自身の栄光を現し、この国のすべての境を広げられました。
- 16 主よ。苦難の時に彼らはあなたを求め、あなたが懲らしめられたとき、彼らはうめきの声をあげました。
- 17 子を産む時が近づいた妊婦が産みの苦しみに、もだえ叫ぶように、主よ、私たちは御前でそのようでした。
- 18 私たちは身ごもり、産みの苦しみをしました。それはあたかも、風を産むようなものでした。私たちは救いを地にもたらさず、世界の住民はもう生まれてきません。
- 19 あなたの死人は生き返り、私の屍は、よみがえります。覚めよ、喜び歌え。土のちりの中にとどまる者よ。まことに、あなたの露は光の露。地は死者の霊を生き返らせます。
- 20 さあ、私の民よ。あなたの部屋に入り、うしろの戸を閉じよ。憤りが過ぎるまで、ほんのしばらく身を隠せ。
- 21 それは、主がまさにご自分のところから出て、地に住む者の咎を罰せられるからだ。地は、その上に流された血をあらわにし、そこで殺された者たちを再びおおうことはない。

## 第27章

- 1 その日、主は、鋭い大きな強い剣で、逃げ惑う蛇レビヤタンを、曲がりくねる蛇レビヤタンを罰し、海にいる竜を殺される。
- 2 「その日、麗しいぶどう畑について歌え。
- 3 わたし、主はそれを見守る者。絶えずこれに水を注ぎ、だれも害を加えないように、夜も昼もこれを見守る。
- 4 わたしにもう憤りはない。もしも、茨とおどろがわたしと戦えば、わたしはそれを踏みつぶし、それをみな焼き払う。
- 5 あるいは、もしわたしという砦に頼りたければ、わたしと和を結ぶがよい。和をわたしと結ぶがよい。
- 6 時が来れば、ヤコブは根を張り、イスラエルは芽を出し、花を咲かせ、世界の面を實で満たす。」
- 7 主は、イスラエルを打った者を打ったように、イスラエルを打たれただろうか。イスラエルを殺した者を殺したように、イスラエルを殺されただろうか。
- 8 あなたは追い立て、追い出し、彼らと争い、東風の日、激しい息で彼らを吹き払われた。
- 9 それゆえ、次のようにしてヤコブの不義は赦される。祭壇の石をすべて、粉々にされた石灰のようにし、アシェラ像と香の台を二度と立てなくすること、これが、自分の罪を除いて得る実のすべてだ。
- 10 城壁のある町はひとり寂しく、捨て置かれた牧場のようになり、見捨てられて荒野のようになる。そこで子牛が草をはみ、そこに伏して、その木の小枝を食い滅ぼす。
- 11 枝が枯れると、それは壊され、女たちが来て、それに火をつける。これは悟りのない民だからだ。それゆえ、これを造った方はあわれまず、これを形造った方は恵みをお与えにならない。
- 12 その日、主はあの大河からエジプト川まで穀物の穂を打ち落とされる。イスラエルの子らよ、あなたがたは一人ひとり拾い上げられる。
- 13 その日、大きな角笛が鳴り渡り、アッシリアの地にいる失われていた者や、エジプトの地に追いやられた者たちが来て、エルサレムの聖なる山で主を礼拝する。

## 第28章

- 1 わざわいだ。エフライムの酔いどれが誇りとする冠、その麗しい飾りの、しぼんでゆく花。これは、酔いつぶれた者たちの、肥えた谷の頂にある。
- 2 見よ、主のもとには激しく力強いものがある。それは、突き刺さり荒れ狂う雹の嵐のようだ。激しい勢いで押し流す豪雨のようだ。主は御手をもってこれを地に下される。
- 3 エフライムの酔いどれが誇りとする冠は、足の下に踏みにじられる。
- 4 肥えた谷の頂にあってこれを麗しく飾る花もしぼみ、夏前の初なりのいちじくの実のようになる。だれかがそれを見つけると、すぐに手に取り、呑み込んでしまう。
- 5 その日、万軍の主は、民の残りの者には輝かしい冠、栄えの飾り輪となり、
- 6 さばきの座に着く者にはさばきの霊となり、攻撃して来る者を城門で追い返す者には力とされる。

- 7 しかし、これらの者も、ぶどう酒でよろめき、強い酒でふらつく。祭司も預言者も強い酒でよろめき、ぶどう酒で混乱し、強い酒でふらつく。幻を見ながらよろめき、さばきを下すとき、よろける。
- 8 どの食卓も吐いた物であふれ、余すところもない。
- 9 「彼は知識をだれに教えようとするのか。知らされたことをだれに悟らせようとするのか。乳離れした子にか。乳房から離された子にか。
- 10 彼は言っている。『ツァウにツァウ、ツァウにツァウ、カウにカウ、カウにカウ、あっちにゼエル、こっちにゼエル』と。』
- 11 まことに主は、もつれた舌で、異国のことばでこの民に語られる。
- 12 主は彼らに、「ここに憩いがある。疲れた者を憩わせよ。ここに休息がある」と言われたのに、彼らは聞こうとしなかった。
- 13 主は彼らに告げられる。「ツァウにツァウ、ツァウにツァウ、カウにカウ、カウにカウ、あっちにゼエル、こっちにゼエル。」これは、彼らが歩くときうしろに倒れて砕かれ、畏にかかって捕らえられるためである。
- 14 それゆえ、嘲る者たちよ、主のことばを聞け。エルサレムでこの民を治める者たちよ。
- 15 あなたがたがこう言ったからだ。「われわれは死と契約を結び、よみと同盟を結んでいる。たとえ、洪水が押し寄せても、それはわれわれには届かない。われわれは、まやかしを避け所とし、偽りに身を隠してきたのだから。」
- 16 それゆえ、神である主はこう言われる。「見よ、わたしはシオンに一つの石を礎として据える。これは試みを経た石、堅く据えられた礎の、尊い要石。これに信頼する者は慌てふためくことがない。
- 17 わたしは公正を測り縄とし、義を重りとする。雹はまやかしの避け所を一掃し、水は隠れ家を押し流す。
- 18 あなたがたの、死との契約は解消され、よみとの同盟は成り立たない。みなぎる天罰が押し寄せると、あなたがたはそれに踏みにじられる。
- 19 それは押し寄せるたびに、あなたがたを捕らえる。しかも朝ごとに押し寄せる。昼にも夜にも。この知らせを悟るなら、ただ恐怖あるのみ。
- 20 まことに、寝床は身を伸ばすには短すぎ、覆いも身をくるむには狭すぎる。」
- 21 実に、主は起き上がられる。ペラツィムの山での時のように。主は奮い立たれる。ギブオンの谷での時のように。みわざを行われるが、そのみわざは不可思議。働きをされるが、その働きは意外。
- 22 だから今、あなたがたは嘲ってはならない。あなたがたを縛るかせが、きつく締まることのないように。私は万軍の神、主から、全世界に下る定められた全滅について聞いているのだ。
- 23 あなたがたは、私の声に耳を傾けて聞け。私の言うことを注意して聞け。
- 24 農夫は種を蒔くために、いつも耕してばかりいるだろうか。土地を起こし、ならしてばかりいるだろうか。
- 25 その地面をならしたら、ういきょうを蒔き、クミンの種を蒔き、小麦を畝に、大麦を定まった場所に、裸麦をその境に植えるではないか。
- 26 農夫は厳しく指導され、彼の神は彼に教える。

- 27 ういきょうは打穀機で打たれず、クミンの上では脱穀車の車輪を回さない。ういきょうは杖で、クミンは棒で打たれるのである。
- 28 パンのために麦は砕かれるが、打穀をいつまでも続けることはしない。脱穀車の車輪を回すことはしても、馬がこれを砕くことはない。
- 29 これも万軍の主のもとから出ること。その摂理は奇しく、その英知は偉大である。

## 第29章

- 1 「ああ、アリエル、アリエル。ダビデが陣を敷いた都よ。年に年を加え、祭りを巡り来させよ。
- 2 わたしはアリエルを虐げるので、そこにはうめきと嘆きが起こり、わたしにとっては祭壇の炉のようになる。
- 3 わたしは、あなたの周りに陣を敷き、前哨部隊で囲み、あなたに対して壘を築く。
- 4 あなたは低くされ、地の中から語りかけ、あなたのことばは、ちりの中からつぶやく。あなたの声は、死人の霊のように地の中から出て、あなたのことばは、ちりの中からささやく。
- 5 しかし、敵の群れは細かいほこりのようになり、横暴な者の群れは吹き飛ぶ籾殻のようになる。しかも、それは突然、不意に起こる。
- 6 万軍の主はあなたを訪れる。雷と地震と大きな音をもって、つむじ風と暴風と焼き尽くす火の炎をもって。
- 7 アリエルに戦いを挑むすべての民の群れ、これを攻めて、取り囲み、これを虐げる者たちはみな、夢のようになり、夜の幻のようになる。
- 8 飢えた者が夢の中で食べ、目が覚めると、その飢えは満たされず、渴いている者が夢の中で飲み、目が覚めると、実に疲れて喉が渴いているように、シオンの山に戦いを挑むすべての民の群れもこのようになる。」
- 9 驚き、たじろげ。目を閉ざされて、盲目となれ。彼らは酔うが、ぶどう酒のせいではない。ふらつくが、強い酒のせいではない。
- 10 主はあなたがたの上に深い眠りの霊を注ぎ、預言者というあなたがたの目を閉ざし、先見者というあなたがたの頭をおおわれた。
- 11 そのため、あなたがたにとっては、すべての幻が、封じられた書物のことばのようになった。読み書きのできる人に渡して、「どうか、これを読んでください」と言っても、「それは封じられているから読めない」と言い、
- 12 また、読み書きのできない人にその書物を渡して、「どうか、これを読んでください」と言っても、「私は読み書きができない」と答えるであろう。
- 13 主は言われた。「それは、この民が口先でわたしに近づき、唇でわたしを敬いながら、その心がわたしから遠く離れているからだ。彼らがわたしを恐れるのは、人間の命令を教え込まれてのことである。
- 14 それゆえ、見よ、わたしはこの民に再び、不思議なこと、驚くべきことをする。この民の知恵ある者の知恵は滅び、悟りある者の悟りは隠される。」
- 15 わざわいだ。主に自分のはかりごとを深く隠す者たち。彼らは闇の中で事を行い、そして言う。「だれが私たちを見ているだろう。だれが私たちを知っているだろう」と。

- 16 ああ、あなたがたは物を逆さに考えている。陶器師を粘土と同じに見なしてよいだろうか。造られた者がそれを造った者に「彼は私を造らなかった」と言い、陶器が陶器師に「彼にはわきまえない」と言えるだろうか。
- 17 もうしばらくすれば、確かに、レバノンが果樹園に変わり、果樹園は森に見えるようになる。
- 18 その日、耳の聞こえない人が、書物のことばを聞き、目の見えない人の目が、暗黒と闇から物を見る。
- 19 柔和な者は主によってますます喜び、貧しい者はイスラエルの聖なる方によって楽しむ。
- 20 横暴な者はいなくなり、嘲る者は絶え果て、よこしまなことを企む者はみな絶ち滅ぼされるからだ。
- 21 彼らはことばで他人を罪に陥れ、城門で戒めを与える者に罾を仕掛け、正しい人を、理由もなく押しつける。
- 22 それゆえ、アブラハムを贖い出された主は、ヤコブの家についてこう言われる。「今からヤコブは恥を見ることがなく、今から顔が青ざめることはない。
- 23 彼が自分の子らを見て、自分たちの中にわたしの手のわざを見るとき、彼らはわたしの名を聖とし、ヤコブの聖なる者を聖として、イスラエルの神を恐れるからだ。
- 24 心迷う者は理解を得、不平を言う者も教訓を得る。」

## 第30章

- 1 「わざわいだ、頑なな子ら。—主のことば—彼らははかりごとをめぐらすが、わたしによらず、同盟を結ぶが、わたしの霊によらず、罪に罪を増し加えるばかりだ。
- 2 彼らはエジプトに下って行こうとするが、わたしの指示を仰がない。ファラオの保護のもとに身を避け、エジプトの陰に隠れようとする。
- 3 しかし、ファラオの保護に頼ることはあなたがたの恥となり、エジプトの陰に身を隠すことは恥辱となる。
- 4 その首長たちがツォアンにいても、その使者たちがハネスに着いても、
- 5 彼らはみな辱められる。自分たちにとって役に立たない民のゆえに。その民は彼らの助けとならず、役にも立たない。かえって恥となり、そしりの的となる。」
- 6 ネゲブの獣についての宣告。「苦難と苦悩の地を通り、雌獅子や雄獅子、まむしや、飛び回る燃える蛇のいるところを通り、彼らはその財宝をろばの背に載せ、宝物をらくだのこぶに載せて、役にも立たない民のところへ運ぶ。
- 7 エジプトの助けは空しく、当てにならない。だから、わたしはこれを『何もしないラハブ』と呼ぶ。」
- 8 「今、行って、彼らの前でこれを板に書き、書物にこれを記し、後の日のために永遠の証しとせよ。
- 9 彼らは反逆の民、嘘つきの子ら、主のおしえを聞こうとしない子らだから。
- 10 彼らは予見者に『見るな』と言い、先見者にはこう言う。『われわれについて正しいことを幻で見るな。われわれに心地よいことを語り、だましごとを預言せよ。
- 11 道から外れ、道筋からそれ、われわれの前からイスラエルの聖なる方を消せ。』」

- 12 それゆえ、イスラエルの聖なる方はこう言われる。「あなたがたは、わたしの言うことを退けて、虐げと悪巧みに拠り頼み、これに頼った。
- 13 それゆえ、このあなたがたの不義は、そそり立つ城壁に広がって今にもそれを倒す裂け目のようになる。その倒壊は瞬く間に来る。
- 14 その倒壊は、陶器師の壺が容赦なく打ち砕かれるときのよう。その破片の中には、炉から火を取り、水溜めから水を汲むかけらさえ見つからない。」
- 15 イスラエルの聖なる方、神である主はこう言われた。「立ち返って落ち着いていれば、あなたがたは救われ、静かにして信頼すれば、あなたがたは力を得る。」しかし、あなたがたはこれを望まなかった。
- 16 あなたがたは言った。「いや、私たちは馬で逃げよう」と。そう言うなら、あなたがたは逃げてみよ。また、「私たちは早馬で」と言った。そう言うなら、あなたがたの追っ手はなお速い。
- 17 一人の脅しによって千人が逃げ、五人の脅しによってあなたがたは逃げる。ついには、残る者が山の頂の旗ざお、丘の上の旗のようになる。
- 18 それゆえ主は、あなたがたに恵みを与えようとして待ち、それゆえ、あわれみを与えようと立ち上がられる。主が義の神であるからだ。幸いなことよ、主を待ち望むすべての者は。
- 19 ああ、シオンの民、エルサレムに住む者。もうあなたは泣くことはない。あなたの叫ぶ声に応え、主は必ず恵みを与え、それを聞くとき、あなたに答えてくださる。
- 20 たとえ主があなたがたに苦しみのパンと虐げの水を与えても、あなたを教える方はもう隠れることはなく、あなたの目はあなたを教える方を見続ける。
- 21 あなたが右に行くにも左に行くにも、うしろから「これが道だ。これに歩め」と言うことばを、あなたの耳は聞く。
- 22 あなたは、銀をかぶせた刻んだ像と、金をかぶせた鋳物の像を汚れたものと見なし、不浄の物としてそれをまき散らし、これに「出て行け」と言う。
- 23 あなたが土地に蒔くあなたの種に主は雨を降らせてくださる。それで、その土地の産する食物はみずみずしく豊かである。その日、あなたの家畜の群れは広々とした牧場で草をはむ。
- 24 土地を耕す牛やろばは、シャベルや熊手でふるい分けられた味の良いまぐさを食べる。
- 25 大いなる殺戮の日、やぐらの倒れる日に、高い山、そびえる丘の上すべてに、水の流れる運河ができる。
- 26 主がその民の傷を包み、その打たれた傷を癒やされる日に、月の光は太陽の光のようになり、太陽の光は七倍になって、七日分の光のようになる。
- 27 見よ、主の御名が遠くから来る。立ち上る濃い煙とともに、怒りに燃えて。その唇は憤りに満ち、舌は焼き尽くす火のよう。
- 28 その息は、あふれて首まで達する流れのようだ。それは国々を破滅のふるいにかけて、諸国の民のあごに、迷い出させる手綱をかける。
- 29 あなたがたには、聖なる祭りの祝いの夜のような歌があり、主の山、イスラエルの岩に行くために笛に合わせて進む者のような、心の喜びがある。
- 30 しかし、主は威厳ある御声を聞かせ、大雨、嵐、雹の石で、激しい怒りと、焼き尽くす火の炎とともに、下される御腕を見せる。
- 31 主の御声を聞いてアッシリアは打ちのめされる。主が杖でこれを打たれる。

- 32 主が下す懲らしめの杖がしなるたびに、タンバリンと豎琴が鳴らされる。主は武器を振り回して、これと戦う。
- 33 すでにトフェトも整えられ、実に王のためにも備えられている。それは深く、広くなっていて、そこには火と多くの薪がある。主の息が硫黄の流れのように、それを燃やす。

## 第31章

- 1 ああ、助けを求めてエジプトに下る者たち。彼らは馬に頼り、数が多いとあって戦車に、非常に強いとあって騎兵に抛り頼み、イスラエルの聖なる方に目を向けず、主を求めない。
- 2 しかし、主は知恵のある方。わざわいをもたらし、みことばを取り消さない。主は、悪を行う者の家と、不法を行う者を助ける者に対して立ち上がる。
- 3 エジプト人は人間であって神ではなく、彼らの馬も肉であって霊ではない。主が御手を伸ばされると、助ける者はつまずき、助けられる者は倒れて、皆ともに滅び果てる。
- 4 まことに、主は私にこう言われる。「獅子、あるいは若獅子が獲物に向かって吼えるとき、たとえ大勢の牧者がそこに呼び集められても、獅子は彼らの声にひるむことなく、彼らの騒ぎにも動じない。そのように、万軍の主は下って来て、シオンの山とその丘の上で戦う。
- 5 万軍の主は、舞い飛ぶ鳥のようにエルサレムを守る。これを守って救い出し、これを助けて解放する。」
- 6 帰れ、イスラエルの子らよ。あなたがたが反抗を強めているその方のもとに。
- 7 その日、イスラエルの子らは、それぞれ銀の偽りの神々や、金の偽りの神々を退ける。それらは、あなたがたが自分の手で自分のために造ったもので、そのことは罪過となっている。
- 8 「アッシリアは人のものでない剣に倒れ、人間のものでない剣が彼らを食い尽くす。アッシリアは剣の前から逃げ、若い男たちは苦役に服する。
- 9 その岩は恐怖のために過ぎ去り、その首長たちも旗を捨て、おののき逃げ去る。—シオンに火を持ち、エルサレムにかまどを持つ主のことば。」

## 第32章

- 1 見よ。一人の王が義によって治め、首長たちは公正によって支配する。
- 2 彼らはそれぞれ、風を避ける避け所、嵐を避ける隠れ場のようになり、砂漠にある水の流れ、乾ききった地にある、大きな岩の陰のようになる。
- 3 見る者の目は固く閉じることがなく、聞く者の耳は注意深く聞く。
- 4 性急な者の心も知識を悟り、もつれた舌もはっきりと早口で語る。
- 5 もはや、愚か者が高貴な人とは呼ばれず、ならず者が上流の人とは言われない。
- 6 なぜなら、愚か者は愚かなことを語って、心で不法を企み、不敬虔なことを行って、主に向かって迷いごとを語るからだ。飢えている者を飢えさせて、渴いている者に飲み物を与えない。
- 7 ならず者、そのやり方は悪質だ。彼は悪事を企み、貧しい者が正しいことを申し立てても、偽りを語って、苦しむ者を滅ぼす。
- 8 しかし、高貴な人は高貴なことを計画し、高貴なことに堅く立つ。

- 9 「安逸を貪る女たちよ。立ち上がって、わたしの声を聞け。うぬぼれている娘たちよ。わたしのことばに耳を傾けよ。
- 10 うぬぼれている女たちよ。一年と少しの日がたつと、あなたがたはわななく。ぶどうの収穫がなくなり、その取り入れもやって来ないからだ。
- 11 安逸を貪る女たちよ、震えよ。うぬぼれている女たちよ、わななけ。着物を脱いで裸になり、腰に粗布をまとえ。
- 12 胸を打って嘆け。美しい畑、実り豊かなぶどうの木のために。
- 13 茨やおどろが生い茂る、わたしの民の土地のために。そして、楽しい家々のすべて、おごる都のために。
- 14 なぜなら、宮殿は見捨てられ、町の騒ぎもさびれ、オフエルと見張りの塔は、いつまでも荒れ野に、野ろばの喜ぶところ、群れの牧場になるからだ。」
- 15 しかし、ついに、いと高き所から私たちに霊が注がれ、荒野が果樹園となり、果樹園が森と見なされるようになる。
- 16 公正は荒野に宿り、義は果樹園に住む。
- 17 義が平和をつくり出し、義がとこしえの平穏と安心をもたらすとき、
- 18 私の民は、平和な住まい、安全な家、安らかな憩いの場に住む。
- 19 あの森は雹が降って倒れ、あの町は全く卑しめられる。
- 20 ああ、幸いなことよ。すべての水のほとりに種を蒔き、牛とろばを放し飼いするあなたがたは。

## 第33章

- 1 わざわいだ。自分は踏みにじられなかったのに、人を踏みにじり、裏切られなかったのに、人を裏切るあなたは。自分が踏みにじることを終えるとき、あなたは踏みにじられ、裏切りをやめるとき、あなたは裏切られる。
- 2 主よ、あわれんでください。私たちはあなたを待ち望みます。朝ごとに私たちの腕となり、苦難の時の、私たちの救いとなってください。
- 3 その鳴りとどろく声に、もろもろの民は逃げ、あなたが立ち上がると、国々は散らされま
- 4 あなたがたの分捕り物は、いなごの若虫が集まるように集められ、いなごの群れが飛びつくように人々はそれに飛びつく。
- 5 主はいと高き方で、高い所に住み、シオンを公正と義で満たされる。
- 6 主はあなたの時を堅く支え、救いと知恵と知識の富となられる。主を恐れることは、その財宝である。
- 7 見よ。彼らの勇士は通りで叫び、平和の使者たちは激しく泣く。
- 8 大路は荒れ果てて、道行く者は途絶え、契約は破られて、町々は捨てられ、人は顧みられることがない。
- 9 地は喪に服してしおれ、レバノン is 辱めを受けて枯れ果てる。シャロンは荒れ野のようになり、バシャンもカルメルも葉を振り落とす。

- 10 「今、わたしは立ち上がる。――主は言われる――今、わたしは自らを高く上げ、今、わたしは自らを高める。
- 11 あなたがたは枯れ草をはらみ、藁を産む。あなたがたの息は、自分たちを食い尽くす火だ。
- 12 諸国の民は焼かれて石灰となり、刈り取られて火をつけられる茨となる。」
- 13 「遠くの者よ、わたしのしたことを聞け。近くの者よ、わたしの力あるわざを知れ。」
- 14 罪人たちはシオンでわななき、神を敬わない者たちを震えがとらえる。「私たちのうち、だれが焼き尽くす火に耐えられるか。私たちのうち、だれが、とこしえに燃える炉に耐えられるか。」
- 15 義を行う者、公正を語る者、強奪による利得を退ける者、手を振って賄賂を受け取らない者、耳をふさいで流血について聞かない者、目を閉じて悪いことを見ない者。
- 16 このような人は高い所に住み、その砦は岩場の上の要害である。彼のパンは備えられ、彼の水は確保される。
- 17 あなたの目は麗しい王を見、遠くまで広がる国を眺める。
- 18 あなたの心は、恐ろしかったことを思い巡らす。「数えた者はどこにいるのか。量った者はどこにいるのか。やぐらを数えた者はどこにいるのか。」
- 19 あなたはもう横柄な民を見ない。難しくて聞き取れない外国語を、口ごもって、わけの分からないことばを話す民を。
- 20 私たちの祝祭の都、シオンを見よ。あなたの目は、安らかな住まい、移ることのない天幕、エルサレムを見る。その杭はとこしえに抜かれず、その綱は一本も切られない。
- 21 しかも、そこには威厳ある主が私たちとともにいてくださる。そこには多くの川があり、幅の広い川がある。櫂で漕ぐ舟もそこを通わず、大船もそこを通らない。
- 22 まことに、主は私たちをさばく方、主は私たちに法を定める方、主は私たちの王、この方が私たちを救われる。
- 23 あなたの帆の綱は解け、帆柱の基に結ぶこともできず、帆を張ることもできない。そのとき、おびただしい数の分捕り物が分けられ、足の萎えた者も獲物をかすめる。
- 24 そこに住む者は「私は病気だ」とは言わず、そこに住む民の咎は除かれる。

## 第34章

- 1 国々よ、近づいて聞け。諸国の民よ、耳を傾けよ。地とそこに満ちているものよ、聞け。世界とそこから生え出たすべてのものよ。
- 2 主がすべての国に向かって激しく怒り、そのすべての軍勢に向かって憤り、彼らを聖絶し、虐殺されるにまかされたからだ。
- 3 彼らの殺された者は投げ捨てられ、その死体は悪臭を放ち、山々はその血によって溶ける。
- 4 天の万象は朽ち果て、天は巻物のように巻かれる。その万象は枯れ落ちる。ぶどうの木から葉が枯れ落ちるように。いちじくの木から実がしぼんで落ちるように。
- 5 「まことに、天でわたしの剣は血に浸されている。見よ。これがエドムの上に、わたしが聖絶すると定めた民の上に下る。」
- 6 主の剣は血で満ち、脂肪で肥えている。子羊とやぎの血、雄羊の腎臓の脂肪で。主がボツラでいけにえを屠り、エドムの地で大虐殺をされるからだ。

- 7 野牛は彼らとともに、雄牛は荒馬とともに倒れる。彼らの地には血が染み込み、その土は脂肪で肥える。
- 8 それは主の復讐の日であり、シオンの訴えのために仇を返す年だからだ。
- 9 エドムの川はピッチに、その土は硫黄に変わる。その地は燃えるピッチになる。
- 10 それは夜も昼も消えず、その煙はいつまでも立ち上る。そこは代々にわたって廃墟となり、もうそこを通る者はだれもいない。
- 11 ふくろうと針ねずみがそこをわがものとし、みみずくと烏がそこに住む。主はその上に茫漠の測り縄を張り、空虚の重りを下げる。
- 12 そのおもだった人たちで、王権を宣言する者は、そこにはいない。すべての首長たちもいなくなる。
- 13 その宮殿には茨が生え、要塞には、いらくさやあざみが生え、ジャッカルに住みか、だちょうの住む所となる。
- 14 荒野の獣は山犬に会い、野やぎはその友を呼ぶ。そこには夜の鳥も憩い、自分の休み場を見つける。
- 15 蛇もそこに巣を作って卵を産み、それをかえして自分の陰に集める。鳶もそれぞれ自分の伴侶と、そこに集まる。
- 16 主の書物を調べて読め。これらのもののうち、どれも失われていない。それぞれ自分の伴侶を欠くものはない。それは、主の口がこれを命じ、主の御霊がこれらを集めたからである。
- 17 主はこれらのもののためにくじを引き、御手が測り縄で測って彼らに分け与えたので、彼らはとこしえまでもこれを所有し、代々にわたってここに住む。

## 第35章

- 1 荒野と砂漠は喜び、荒れ地は喜び躍り、サフランのように花を咲かせる。
- 2 盛んに花を咲かせ、歓喜して歌う。これに、レバノンの栄光と、カルメルやシャロンの威光が授けられるので、彼らは主の栄光、私たちの神の威光を見る。
- 3 弱った手を強め、よろめく膝をしっかりさせよ。
- 4 心騒ぐ者たちに言え。「強くあれ。恐れるな。見よ。あなたがたの神が、復讐が、神の報いがやって来る。神は来て、あなたがたを救われる。」
- 5 そのとき、目の見えない者の目は開かれ、耳の聞こえない者の耳は開けられる。
- 6 そのとき、足の萎えた者は鹿のように飛び跳ね、口のきけない者の舌は喜び歌う。荒野に水が湧き出し、荒れ地に川が流れるからだ。
- 7 焼けた地は沢となり、潤いのない地は水の湧くところとなり、ジャッカルが伏したねぐらは葦やパピルス茂みとなる。
- 8 そこに大路があり、その道は「聖なる道」と呼ばれる。汚れた者はそこを通れない。これは、その道を行く者たちのもの。そこを愚か者がさまようことはない。
- 9 そこには獅子もおらず、猛獣もそこに上って来ることはなく、そこには何も見つからない。贖われた者たちだけがそこを歩む。
- 10 主に贖われた者たちは帰って来る。彼らは喜び歌いながらシオンに入り、その頭にはとこしえの喜びを戴く。楽しみと喜びがついて来て、悲しみと嘆きは逃げ去る。

## 第36章

- 1 ヒゼキヤ王の第十四年のことであつた。アッシリアの王センナケリブが、ユダのすべての城壁のある町々に攻め上り、これを取つた。
- 2 アッシリアの王は、ラブ・シャケを大軍とともにラキシュからエルサレムのヒゼキヤ王のところへ送つた。ラブ・シャケは布さらしの野への大路にある、上の池の水道のそばに立つた。
- 3 ヒルキヤの子である宮廷長官エルヤキム、書記シェブナ、およびアサフの子である史官ヨアフは、彼のところに出て行つた。
- 4 ラブ・シャケは彼らに言つた。「ヒゼキヤに伝えよ。大王、アッシリアの王がこう言つておられる。『いったい、おまえは何に拠り頼んでいるのか。』」
- 5 口先だけのことばが、戦略であり戦力だと言うのか。今おまえは、だれに拠り頼んでいるのか。私に反逆しているが。
- 6 おまえは、あの傷んだ葦の杖、エジプトに拠り頼んでいるが、それは、それに寄りかかる者の手を刺し貫くだけだ。エジプトの王ファラオは、すべて彼に拠り頼む者にそうするのだ。
- 7 おまえは私に「われわれは、われわれの神、主に拠り頼む」と言う。その主とは、ヒゼキヤがその高き所と祭壇を取り除いて、ユダとエルサレムに「この祭壇の前で拝め」と言つた、そういう主ではないか。
- 8 さあ今、私の主君、アッシリアの王と賭けをしないか。もし、おまえのほうで乗り手をそろえることができるのなら、おまえに二千頭の馬を与えよう。
- 9 おまえは戦車と騎兵のことでエジプトに拠り頼んでいるが、私の主君の最も小さい家来である総督一人さえ追い返せないのだ。
- 10 今、私がこの国を滅ぼすために上つて来たのは、主を差し置いてのことであろうか。主が私に「この国に攻め上つて、これを滅ぼせ」と言われたのだ。』」
- 11 エルヤキムとシェブナとヨアフは、ラブ・シャケに言つた。「どうか、しもべたちにはアラム語で話してください。われわれはアラム語が分かりますから。城壁の上にいる民が聞いているところでは、われわれにユダのことばで話さないでください。』」
- 12 ラブ・シャケは言つた。「私の主君がこれらのことを告げに私を遣わされたのは、おまえの主君や、おまえのためだろうか。むしろ、城壁の上に座っている者たちのためではないか。彼らはおまえたちと一緒に、自分の糞を食らい、自分の尿を飲むようになるのだ。』」
- 13 ラブ・シャケは突つ立って、ユダのことばで大声で叫んだ。「大王、アッシリアの王のことばを聞け。
- 14 王はこう言つておられる。『ヒゼキヤにごまかされるな。あれは、おまえたちを救い出すことができないからだ。』」
- 15 ヒゼキヤは、「主が必ずわれわれを救い出してくださる。この都は決してアッシリアの王の手に渡されることはない」と言つて、おまえたちに主を信頼させようとするが、そうはさせない。』」
- 16 ヒゼキヤの言うことを聞くな。アッシリアの王がこう言つておられるからだ。『私と和を結び、私に降伏せよ。そうすれば、おまえたちはみな、自分のぶどうと自分のいちじくを食べ、自分の井戸の水を飲めるようになる。』」
- 17 その後私は来て、おまえたちの国と同じような国におまえたちを連れて行く。そこは穀物と新しいぶどう酒の地、パンとぶどう畑の地である。

- 18 ヒゼキヤが、「主はわれわれを救い出してくださる」と言っても、おまえたちは、そそのかされないようにせよ。国々の神々は、それぞれ自分の国をアッシリアの王の手から救い出しただろうか。
- 19 ハマテやアルパデの神々は今、どこにいるのか。セファルワイムの神々はどこにいるのか。彼らはサマリアを私の手から救い出したか。
- 20 これらの国々のすべての神々のうち、だれが自分たちの国を私の手から救い出したか。主がエルサレムを私の手から救い出せるとでもいうのか。』」
- 21 人々は黙って、彼に一言も答えなかった。「彼に答えるな」というのが、王の命令だったからである。
- 22 ヒルキヤの子である宮廷長官エルヤキム、書記シェブナ、アサフの子である史官ヨアフは、自分たちの衣を引き裂いてヒゼキヤのもとに行き、ラブ・シャケのことは告げた。

## 第37章

- 1 ヒゼキヤ王はこれを聞くと衣を引き裂き、粗布を身にまとって主の宮に入った。
- 2 彼は、宮廷長官エルヤキム、書記シェブナ、年長の祭司たちに粗布を身にまとわせて、預言者である、アモツの子イザヤのところに遣わした。
- 3 彼らはイザヤに言った。「ヒゼキヤはこう言っておられます。『今日は、苦難と懲らしめと屈辱の日です。子どもが生まれようとしているのに、それを産み出す力がないからです。』」
- 4 おそらく、あなたの神、主は、ラブ・シャケのことは聞かれたことでしょう。彼の主君、アッシリアの王が、生ける神をそしるために彼を遣わしたのです。あなたの神、主は、お聞きになったそのことをとがめられます。あなたは、まだいる残りの者のために祈りの声をあげてください。』」
- 5 ヒゼキヤ王の家来たちがイザヤのもとに来たとき、
- 6 イザヤは彼らに言った。「あなたがたの主君にこう言いなさい。『主はこう言われる。あなたが聞いたあのことは、アッシリアの王の若い者たちがわたしをののしった、あのことを恐れるな。』」
- 7 今、わたしは彼のうちに霊を置く。彼は、あるうわさを聞いて、自分の国に引き揚げる。わたしはその国で彼を剣で倒す。』」
- 8 ラブ・シャケは退いて、リブナを攻めていたアッシリアの王と落ち合った。王がラキシユから移動したことを聞いていたからである。
- 9 王は、クシュの王ティルハカについて、「彼があなたと戦うために出て来ている」との知らせを聞いた。アッシリアの王はそれを聞くと、使者たちをヒゼキヤに送って言った。
- 10 「ユダの王ヒゼキヤにこう伝えよ。『おまえが信頼するおまえの神にだまされてはいけない。エルサレムはアッシリアの王の手に渡されないと断言しているが。』」
- 11 おまえは、アッシリアの王たちがすべての国々にしたこと、それらを絶滅させたことを確かに聞いている。それでも、おまえだけは救い出されるというのか。
- 12 私の先祖は、ゴザン、ハラン、レツェフ、またテラサルにいたエデンの人々を滅ぼしたが、その国々の神々は彼らを救い出したか。
- 13 ハマテの王、アルパデの王、セファルワイムの町の王、ヘナやイワの王はどこにいるか。』」

- 14 ヒゼキヤは、使者の手からその手紙を受け取って読み、主の宮に上って行き、それを主の前に広げた。
- 15 ヒゼキヤは主に祈った。
- 16 「ケルビムの上に座しておられるイスラエルの神、万軍の主よ。ただ、あなただけが、地のすべての王国の神です。あなたが天と地を造られました。
- 17 主よ。御耳を傾けて聞いてください。主よ。御目を開いてご覧ください。生ける神をそしるために言ってよこしたセンナケリブのことばをみな聞いてください。
- 18 主よ。アッシリアの王たちが、すべての国々とその国土を廃墟としたのは事実です。
- 19 彼らはその神々を火に投げ込みました。それらが神ではなく、人の手のわざ、木や石にすぎなかったので、彼らはこれを滅ぼすことができたのです。
- 20 私たちの神、主よ。今、私たちを彼の手から救ってください。そうすれば、地のすべての王国は、あなただけが主であることを知るでしょう。」
- 21 アモツの子イザヤは、ヒゼキヤのところに人を送って言った。「イスラエルの神、主はこう言われる。『あなたはアッシリアの王センナケリブについて、わたしに祈った。』
- 22 主が彼について語られたことばは、このとおりである。『処女である娘シオンは おまえを蔑み、おまえを嘲る。 娘エルサレムは、おまえのうしろで頭を振る。
- 23 おまえはだれをそしり、だれをののしったのか。だれに向かって声をあげ、高慢な目を上げたのか。イスラエルの聖なる者に対してだ。
- 24 おまえはしもべたちを通して、主をそしって言った。「多くの戦車を率いて、私は山々の頂に、レバノンの奥深くに上って行った。そのそびえる杉の木と美しいもみの木を切り倒し、その果ての高地、木の茂った園にまで入って行った。
- 25 私は井戸を掘って水を飲み、足の裏で エジプトのすべての川を干上がらせた」と。
- 26 おまえは聞かなかったのか。遠い昔に、わたしがそれをなし、大昔に、わたしがそれを計画し、今、それを果たしたことを。それで、おまえは城壁のある町々を荒らして 廃墟の石くれの山としたのだ。
- 27 その住民は力失せ、打ちのめされて恥を見て、野の草や青菜、育つ前に干からびる屋根の草のようになった。
- 28 おまえが座るのも、出て行くのも、おまえが入るのも、わたしはよく知っている。わたしに向かっていきり立つのも。
- 29 おまえがわたしに向かっていきり立ち、おまえの安逸がわたしの耳に届いたので、わたしはおまえの鼻に鉤輪を、口にくつわをはめ、おまえを、もと来た道に引き戻す。』
- 30 あなたへのしるしは、こうである。『今年は、落ち穂から生えたものを食べ、二年目は、それから生えたものを食べ、三年目は、種を蒔いて刈り入れ、ぶどう畑を作ってその実を食べる。
- 31 ユダの家の中の逃れの者、残された者は、下に根を張り、上に実を結ぶ。
- 32 エルサレムから残りの者が、シオンの山から、逃れの者が出て来るからである。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。』
- 33 それゆえ、アッシリアの王について、主はこう言われる。『彼はこの都に侵入しない。また、ここに矢を放たず、これに盾をもって迫らず、塁を築いてこれを攻めることもない。
- 34 彼は、もと来た道を引き返し、この都には入らない—主のことば—。

- 35 わたしはこの都を守って、これを救う。わたしのために、わたしのしもベダビデのために。』」
- 36 主の使いが出て行き、アッシリアの陣営で十八万五千人を打ち殺した。人々が翌朝早く起きて見ると、なんと、彼らはみな死体となっていた。
- 37 アッシリアの王センナケリブは陣をたたんで去り、帰ってニネベに住んだ。
- 38 彼が自分の神ニスロクの神殿で拝んでいたとき、その息子たち、アデラメレクとサルエツェルは、剣で彼を打ち殺した。彼らはアララテの地へ逃れ、彼の子エサル・ハドンが代わって王となった。

## 第38章

- 1 そのころ、ヒゼキヤは病気になって死にかかっていた。そこへ、アモツの子、預言者イザヤが来て、彼に言った。「主はこう言われる。『あなたの家を整理せよ。あなたは死ぬ。治らない。』」
- 2 ヒゼキヤは顔を壁に向け、主に祈った。
- 3 「ああ、主よ、どうか思い出してください。私が、真実と全き心をもって、あなたの御前に歩み、あなたの御目にかなうことを行ってきたことを。」ヒゼキヤは大声で泣いた。
- 4 そのとき、イザヤに次のような主のことばがあった。
- 5 「行ってヒゼキヤに告げよ。『あなたの父ダビデの神、主はこう言われる。わたしはあなたの祈りを聞いた。あなたの涙も見た。見よ。わたしはあなたの寿命にもう十五年を加える。』」
- 6 わたしはアッシリアの王の手からあなたとこの都を救い出し、この都を守る。
- 7 次のことが、あなたへの主からのしるしである。主は約束したこのことを成就する。
- 8 見よ。わたしは、アハズの日時計に落ちた時計の影を十度後に戻す。』」すると、日時計に落ちた日が十度戻った。
- 9 ユダの王ヒゼキヤが病気になって、その病気から回復したときに記したもの。
- 10 私は言った。生涯の半ばで私はよみの門に入る。私は残りの年を失ってしまったのだ。
- 11 私は言った。私は主を、生ける者の地で主を見ることはない。私は、死人の国の住人とともにあり、再び人を見ることもない。
- 12 私の住まいは牧者の天幕のように引き抜かれ、私から取り去られた。私は、機織りのように自分のいのちを巻いた。主は私を、機から断ち切られる。昼から夜へと、あなたは私を終わりに近づけられます。
- 13 私は朝まで叫びました。主は雄獅子のように私のすべての骨を砕かれます。昼から夜へと、あなたは私を終わりに近づけられます。
- 14 燕や鶴のように私は泣き、鳩のようにうめきました。私の目は上を仰いで衰えました。主よ、私は虐げられています。私の保証人となってください。
- 15 何を私は語れるでしょう。主が私に語り、主が自ら行われたのに。私は自分のすべての年月、自分のたましいの苦しみのゆえに、ゆっくりと歩んで行きます。
- 16 主よ、これらによって人は生きるのです。私の霊のいのちも、すべてこれらに従っています。どうか私を健やかにし、私を生かしてください。

- 17 ああ、私の味わった苦い苦しみは 平安のためでした。あなたは私のたましいを慕い、滅びの穴から引き離されました。あなたは私のすべての罪を、あなたのうしろに投げやられました。
- 18 よみはあなたをほめたたえず、死はあなたを賛美せず、穴に下る者たちはあなたの真実を待ち望みません。
- 19 生きている者、ただ生きている者だけが、今日の私のように、あなたをほめたたえます。父は子らにあなたの真実について知らせます。
- 20 主は私を救ってくださる。私たちは生きている日々の間、主の宮で琴を奏でよう。
- 21 イザヤは言った。「ひとかたまりの干しいちじくを持って来させ、腫物の上に塗りなさい。そうすれば治ります。」
- 22 ヒゼキヤは言った。「私が主の宮に上れるしるしは何ですか。」

## 第39章

- 1 そのころ、バルアダンの子、バビロンの王メロダク・バルアダンは使者を遣わして、手紙と贈り物をヒゼキヤに届けた。彼は病気だったが元気になった、と聞いたからである。
- 2 ヒゼキヤは彼らを喜び、宝庫、銀、金、香料、高価な油、一切の武器庫、彼の宝物倉にあるすべての物を彼らに見せた。ヒゼキヤがその家の中、および国中で、彼らに見せなかった物一つもなかった。
- 3 預言者イザヤはヒゼキヤ王のところに来て、彼に尋ねた。「あの人たちは何と言いましたか。どこから来たのですか。」ヒゼキヤは「遠い国、バビロンから私のところに来ました」と答えた。
- 4 イザヤは言った。「彼らはあなたの家で何を見たのですか。」ヒゼキヤは答えた。「私の家の中のすべての物を見ました。私の宝物倉の中で彼らに見せなかった物一つもありません。」
- 5 イザヤはヒゼキヤに言った。「万軍の主のことばを聞きなさい。
- 6 見よ。あなたの家にある物、あなたの父祖たちが今日まで蓄えてきた物がすべて、バビロンへ運び去られる日々が来る。何一つ残されることはない—主は言われる—。
- 7 また、あなたが生む、あなた自身の息子たちの中には、捕らえられてバビロンの王の宮殿で宦官となる者がいる。」
- 8 ヒゼキヤはイザヤに言った。「あなたが告げてくれた主のことばはありがたい。」彼は、自分が生きている間は平和と安定があるだろう、と思ったのである。

## 第40章

- 1 「慰めよ、慰めよ、わたしの民を。—あなたがたの神は仰せられる—
- 2 エルサレムに優しく語りかけよ。これに呼びかけよ。その苦役は終わり、その咎は償われている、と。そのすべての罪に代えて、二倍のものを主の手から受けている、と。」
- 3 荒野で叫ぶ者の声がする。「主の道を用意せよ。荒れ地で私たちの神のために、大路をまっすぐにせよ。
- 4 すべての谷は引き上げられ、すべての山や丘は低くなる。曲がったところはまっすぐになり、険しい地は平らになる。

- 5 このようにして主の栄光が現されると、すべての肉なる者がともにこれを見る。まことに主の御口が語られる。」
- 6 「叫べ」と言う者の声がある。「何と叫びましょうか」と人は言う。「人はみな草のよう。その栄えはみな野の花のようだ。
- 7 主の息吹がその上に吹くと、草はしおれ、花は散る。まことに民は草だ。
- 8 草はしおれ、花は散る。しかし、私たちの神のことばは永遠に立つ。」
- 9 シオンに良い知らせを伝える者よ、高い山に登れ。エルサレムに良い知らせを伝える者よ、力の限り声をあげよ。声をあげよ。恐れるな。ユダの町々に言え。「見よ、あなたがたの神を。」
- 10 見よ。神である主は力をもって来られ、その御腕で統べ治める。見よ。その報いは主とともにあり、その報酬は主の御前にある。
- 11 主は羊飼いのように、その群れを飼い、御腕に子羊を引き寄せ、懐に抱き、乳を飲ませる羊を優しく導く。
- 12 だれが手のひらで水を量り、手の幅で天を測り、地のちりを升に盛り、山々を天秤で量ったのか。もろもろの丘を秤で。
- 13 だれが主の霊を推し量り、主の助言者として主に教えたのか。
- 14 主はだれと相談して悟りを得られたのか。だれが公正の道筋を主に教えて、知識を授け、英知の道を知らせたのか。
- 15 見よ。国々は手桶の一しずく、秤の上のごみのように見なされる。見よ。主は島々をちりのように取り上げる。
- 16 レバノンも、薪にするには足りない。その獣も、全焼のささげ物にするには足りない。
- 17 すべての国々も主の前では無いに等しく、主には、空しく何もないものと見なされる。
- 18 あなたがたは神をだれになぞらえ、神をどんな似姿に似せようとするのか。
- 19 鋳物師は鋳像を鋳て造り、金細工人はそれに金をかぶせ、銀の鎖を作る。
- 20 貧しい者は、奉納物として朽ちない木を選び、巧みな細工人を探して、動かない彫像を据える。
- 21 あなたがたは知らないのか。聞いていないのか。初めから、告げられていなかったのか。悟っていなかったのか。地の基のことを。
- 22 主は、地をおおう天蓋の上に住む方。地の住民はバツタのようだ。主は、天を薄絹のように延べ広げ、これを天幕のように張って住まわれる。
- 23 君主たちを無に帰し、地をさばく者たちを空しいものとされる。
- 24 彼らが植えられ、蒔かれ、いよいよ地に根を張ろうとするとき、主はそれに風を吹きつけ、彼らは枯れる。暴風がそれを藁のように散らす。
- 25 「それなのに、あなたがたは、わたしをだれになぞらえ、だれと比べようとするのか」と聖なる方は言われる。
- 26 あなたがたは目を高く上げて、だれがこれらを創造したかを見よ。この方はその万象を数えて呼び出し、一つ一つ、その名をもって呼ばれる。この方は精力に満ち、その力は強い。一つも漏れるものはない。
- 27 ヤコブよ、なぜ言うのか。イスラエルよ、なぜ言い張るのか。「私の道は主に隠れ、私の訴えは私の神に見過ごされている」と。

- 28 あなたは知らないのか。聞いたことがないのか。主は永遠の神、地の果てまで創造した方。疲れることなく、弱ることなく、その英知は測り知れない。
- 29 疲れた者には力を与え、精力のない者には勢いを与えられる。
- 30 若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。
- 31 しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。

## 第41章

- 1 「島々よ、わたしの前で静まれ。諸国の民よ、新しく力を得よ。近寄れ。そして語れ。われわれは、ともに、さばきに近づこう。
- 2 だれが一人の者を東から起こし、その行く先々で勝利を収めさせるのか。だれが彼の前に国々を渡し、王たちを踏みにじらせるのか。彼はその剣で彼らをちりのようにし、その弓で藁のように追い散らす。
- 3 彼は彼らを追い、難なく進んで行く。まだ自分の足で行ったことのない道を。
- 4 だれが、最初から代々の人々に呼びかけて これらをなし、これらを行ったのか。主であるわたしだ。わたしは初めであり、また終わりとともにある。わたしがそれだ。
- 5 島々は見て恐れる。地の果ては震えながら、近づき、やって来る。
- 6 彼らは助け合い、その兄弟に『強くあれ』と言う。
- 7 鋳物師は金細工人を励まし、金槌で打つ者は、鉄床をたたく者を励まして、はんだ付けについて『それで良い』と言い、釘で打ち付けて動かないようにする。
- 8 だがイスラエルよ、あなたはわたしのしもべ。わたしが選んだヤコブよ、あなたは、わたしの友アブラハムの裔だ。
- 9 わたしはあなたを地の果てから連れ出し、地の隅々から呼び出して言った。『あなたは、わたしのしもべ。わたしはあなたを選んで、退けなかった』と。
- 10 恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。
- 11 見よ。あなたに向かっていきり立つ者はみな恥を見て辱められ、あなたと争う者たちは無いものようになって滅びる。
- 12 あなたと言ひ争う者を探しても、あなたは見つけることができず、あなたと戦う者たちは、全く無いものようになってしまう。
- 13 わたしがあなたの神、主であり、あなたの右の手を固く握り、『恐れるな。わたしがあなたを助ける』と言う者だからである。
- 14 恐れるな。虫けらのヤコブ、イスラエルの人々。わたしがあなたを助ける。—主のことは—あなたを贖う者はイスラエルの聖なる者。
- 15 見よ。わたしはあなたを鋭く新しい両刃の打穀機とする。あなたは山々を踏みつけて粉々に砕き、丘を粉殻のようになる。
- 16 あなたがそれをあおぐと、風が運び去り、暴風がそれをまき散らす。あなたは主にあって喜び、イスラエルの聖なる者によって誇る。

- 17 苦しむ者や貧しい者が水を求めても それはなく、その舌は渇きで干からびる。わたし、主は彼らに答え、イスラエルの神は彼らを見捨てない。
- 18 わたしは裸の丘に川を開く。平地のただ中には泉を。荒野を水のある沢とし、砂漠の地を水の源とする。
- 19 わたしは荒野に、杉、アカシヤ、ミルトス、オリーブの木を植え、荒れ地に、もみの木、すずかけの木、檜をともに植える。
- 20 それは、主の手がこれを行い、イスラエルの聖なる者がこれを創造したことを、彼らが見て知り、心に留めて、ともに悟るためである。
- 21 あなたがたの訴えを出せ。—主は言われる— あなたがたの証拠を持って来い。—ヤコブの王は言われる—
- 22 持って来て、後に起ころうとする事を告げよ。前の事は何であったのかを告げよ。そうすれば、われわれもそれを心に留め、後の事を知ることができるだろう。または、来たるべき事をわれわれに聞かせよ。
- 23 後に起ころうとする事を告げよ。そうすれば、われわれは、あなたがたが神々であることを知るだろう。良いことでも悪いことでもしてみよ。そうすれば、われわれはともに見て驚くだろう。
- 24 見よ、あなたがたは無に等しい。あなたがたの行いは空しい。あなたがたを選ぶ者は忌まわしい。
- 25 わたしが北から人を起こすと、彼は来て、日の昇るところから、わたしの名を呼ぶ。彼は長官たちを漆喰のように踏む。陶器師が粘土を踏みつけるように。
- 26 だれが、初めから告げて、われわれが知るようにしたか。だれが、あらかじめわれわれに告げて、『それは正しい』と言うようにしたか。告げた者は一人もなく、聞かせた者も一人もなく、あなたがたの言うことを聞いた者も一人もいなかった。
- 27 わたしが最初にシオンに『見よ、それらはここにある』と言い、わたしがエルサレムに『良い知らせを伝える者と与える』と言った。
- 28 しかし、見回しても、だれもいない。彼らの中には助言者がいない。わたしが尋ねても返事のできる者が。
- 29 見よ、彼らはみな偽りで、そのなすことは空しい。彼らの鑄像は風のように何も無い。」

## 第42章

- 1 「見よ。わたしが支えるわたしのしもべ、わたしの心が喜ぶ、わたしの選んだ者。わたしは彼の上にわたしの霊を授け、彼は国々にさばきを行う。
- 2 彼は叫ばず、言い争わず、通りでその声を聞かせない。
- 3 傷んだ葦を折ることもなく、くすぶる灯芯を消すこともなく、真実をもってさばきを執り行う。
- 4 衰えず、くじけることなく、ついには地にさばきを確立する。島々もそのおしえを待ち望む。」
- 5 天を創造し、これを延べ広げ、地とその産物を押し広げ、その上にいる民に息を与え、そこを歩む者たちに霊を授けた神なる主は こう言われる。

- 6 「わたし、主は、義をもってあなたを召し、あなたの手を握る。あなたを見守り、あなたを民の契約として、国々の光とする。
- 7 こうして、見えない目を開き、囚人を牢獄から、闇の中に住む者たちを獄屋から連れ出す。
- 8 わたしは主、これがわたしの名。わたしは、わたしの栄光をほかの者に、わたしの栄誉を、刻んだ像どもに与えはしない。
- 9 初めのことは、見よ、すでに起こった。新しいことを、わたしは告げる。それが起こる前にあなたがたに聞かせる。」
- 10 新しい歌を主に歌え。その栄誉を、地の果てから。海に下る者、そこを渡るすべての者、島々とそこに住む者よ。
- 11 荒野とその町々、ケダル人が住む村々よ、声をあげよ。セラに住む者たちは喜び歌え。山々の頂から声高らかに叫べ。
- 12 主に栄光を帰せよ。島々にその栄誉を告げ知らせよ。
- 13 主は勇士のように出で立ち、戦士のように激しく奮い立ち、ときのをあげて叫び、敵に向かって力を見せつける。
- 14 「久しく、わたしは黙っていた。静かにして自分を抑えていた。今は、子を産む女のようにうめき、激しい息づかいであえぐ。
- 15 わたしは山や丘を荒らし、そのすべての青草を枯らし、川を中州ばかりにし、沢を涸らす。
- 16 わたしは目の見えない人に、知らない道を歩ませ、知らない通り道を行かせる。彼らの前で闇を光に、起伏のある地を平らにする。これらのことをわたしは行い、彼らを見捨てはしない。
- 17 彫像に抛り頼み、鑄像に向かって『あなたがたこそ私たちの神々』と言う者は、退けられて恥を見る。
- 18 耳の聞こえない者たちよ、聞け。目の見えない者たちよ、目を凝らして見よ。
- 19 わたしのしもべほど目の見えない者が、だれかほかにいるだろうか。わたしが送る使者ほど耳の聞こえない者が、ほかにいるだろうか。わたしと和解した者のような目の見えない者、主のしもべのような目の見えない者が、だれかほかにいるだろうか。
- 20 あなたは多くを見ながら、心を留めない。耳が開いているのに、聞こうとしない。」
- 21 主はご自分の義のために望まれた。みおしえを広め、これを輝かすことを。
- 22 しかし、これは、かすめ奪われ略奪された民、彼らはみな穴の中に陥れられ、獄屋に閉じ込められた。かすめ奪われても、助け出す者はなく、略奪されても、返せと言う者もいない。
- 23 あなたがたのうち、だれがこれに耳を傾け、後々のために注意して聞くだろうか。
- 24 だれがヤコブを、奪い取る者に渡したのか。イスラエルを、かすめ奪う者に。それは主ではないか。私たちはこの方の前に罪ある者となり、主の道に歩もうとせず、そのおしえに聞き従わなかった。
- 25 そこで主は、憤ってこれに怒りを注ぎ、激しい戦いをこれに向けた。それがあたりを焼き尽くしても彼は悟らず、自分に燃えついて心にも留めなかった。

## 第43章

- 1 だが今、主はこう言われる。ヤコブよ、あなたを創造した方、イスラエルよ、あなたを形造った方が。「恐れるな。わたしがあなたを贖ったからだ。わたしはあなたの名を呼んだ。あなたは、わたしのもの。
- 2 あなたが水の中を過ぎるときも、わたしは、あなたとともにいる。川を渡るときも、あなたは押し流されず、火の中を歩いて、あなたは焼かれず、炎はあなたに燃えつかない。
- 3 わたしはあなたの神、主、イスラエルの聖なる者、あなたの救い主であるからだ。わたしはエジプトをあなたの身代金とし、クシュとセバをあなたの代わりとする。
- 4 わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。だから、わたしは人をあなたの代わりにし、国民をあなたのいのちの代わりにする。
- 5 恐れるな。わたしがあなたとともにいるからだ。わたしは東からあなたの子孫を来させ、西からあなたを集める。
- 6 北に向かっては『引き渡せ』と言い、南に向かっては『引き止めるな』と言う。わたしの息子たちを遠くから来させ、娘たちを地の果てから来させよ。
- 7 わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造した。これを形造り、また、これを造った。
- 8 目があっても見えない民、耳があっても聞こえない者たちを連れ出せ。
- 9 すべての国々をとともに集わせ、諸国の民を集めよ。彼らのうちのだれが、われわれにこのことを告げ、初めのことを聞かせることができるだろうか。彼らが自分たちの証人を出して証言し、人々がそれを聞いて、『本当だ』と言うようにせよ。
- 10 あなたがたはわたしの証人、一主のことば—わたしが選んだわたしのしもべである。これは、あなたがたが知って、わたしを信じ、わたしがその者であることを悟るためだ。わたしより前に造られた神はなく、わたしより後にも、それはいない。
- 11 わたし、このわたしが主であり、ほかに救い主はいない。
- 12 このわたしが、告げ、救い、聞かせたのだ。あなたがたのうちに、異なる神はいなかった。だから、あなたがたはわたしの証人。一主のことば—わたしが神だ。
- 13 これから後もわたしは神だ。わたしの手から救い出せる者はない。わたしが事を行えば、だれがそれを戻せるだろうか。」
- 14 あなたがたを贖う、イスラエルの聖なる方、主はこう言われる。「あなたがたのために、わたしはバビロンに使いを送り、彼らをことごとく逃亡者として下らせる。カルデア人を彼らの喜びの船で。
- 15 わたしは主、あなたがたの聖なる者、イスラエルの創造者、あなたがたの王である。」
- 16 海の中に道を、激しく流れる水の中に通り道を設け、
- 17 戦車と馬、強力な軍勢を引き出した主はこう言われる。「彼らはみな倒れて起き上がれず、灯芯のように消え失せる。
- 18 先のことに心を留めるな。昔のことに目を留めるな。
- 19 見よ、わたしは新しいことを行う。今、それが芽生えている。あなたがたは、それを知らないのか。必ず、わたしは荒野に道を、荒れ地に川を設ける。

- 20 野の獣、ジャッカルや、だちょうも、わたしをあがめる。わたしが荒野に水を、荒れ地に川を流れさせ、わたしの民、わたしの選んだ者に飲ませるからだ。
- 21 わたしのためにわたしが形造ったこの民は、わたしの榮譽を宣べ伝える。
- 22 しかし、ヤコブよ、あなたはわたしを呼び求めなかった。むしろ、イスラエルよ、あなたはわたしのことで疲れ果てた。
- 23 あなたはわたしに 全焼のささげ物の羊を携えて来ることはなく、いけにえを献げてわたしをあがめようとしなかった。わたしは穀物のささげ物のことであなたに苦勞をさせず、乳香のことで、あなたを煩わせてもいない。
- 24 あなたはわたしのために、金で菖蒲を買わず、いけにえの脂肪で、わたしを満足させなかった。かえって、あなたの罪でわたしに苦勞をさせ、あなたの咎でわたしを煩わせただけだ。
- 25 わたし、このわたしは、わたし自身のために あなたの背きの罪をめぐい去り、もうあなたの罪を思い出さない。
- 26 わたしに思い出させよ。ともにさばきに向かおう。あなたが正しいとされるために、あなたのほうから申し立てよ。
- 27 あなたの最初の先祖は罪を犯し、あなたの仲保者たちはわたしに背いた。
- 28 それで、わたしは聖所のつかさたちを汚し、ヤコブが聖絶されるように、イスラエルがのしられるようにした。」

## 第44章

- 1 「今、聞け。わたしのしもべヤコブ、わたしの選んだイスラエルよ。
- 2 あなたを造り、あなたを母の胎内にいるときから形造り、あなたを助ける主はこう言う。恐れるな。わたしのしもべヤコブ、わたしの選んだエシュルンよ。
- 3 わたしは潤いのない地に水を注ぎ、乾いたところに豊かな流れを注ぎ、わたしの靈をあなたの子孫に、わたしの祝福をあなたの末裔に注ぐ。
- 4 彼らは流れのほとりの柳の木のように、青草の間に芽生える。
- 5 ある者は『私は主のもの』と言い、ある者はヤコブの名で自分を呼び、ある者は手に『主のもの』と記してイスラエルの名を名乗る。」
- 6 イスラエルの王である主、これを贖う方、万軍の主はこう言われる。「わたしは初めであり、わたしは終わりである。わたしのほかに神はいない。
- 7 わたしが永遠の民を起こしたときから、だれが、わたしのように宣言して、これを告げることができたか。これをわたしの前で並べ立ててみよ。彼らに未来のこと、来たるべきことを告げさせてみよ。
- 8 おののくな。恐れるな。わたしが、以前からあなたに聞かせ、告げてきたではないか。あなたがたはわたしの証人。わたしのほかに神があるか。ほかに岩はない。わたしは知らない。
- 9 偶像を造る者はみな、空しい。彼らが慕うものは何の役にも立たない。それら自身が彼らの証人だ。見ることもできず、知ることもできない。彼らはただ恥を見るだけだ。
- 10 だれが神を造り、偶像を鑄たのか。何の役にも立たないものを。
- 11 見よ、その人の仲間たちはみな恥を見る。それを細工した者が人間にすぎないからだ。彼らはみな集まり、立つがよい。彼らはおののいて、ともに恥を見る。

- 12 鉄で細工する者は工具を用い、炭火の上で細工し、金槌でこれを形造り、力ある腕でそれを造る。腹が減ると、力がなくなり、水を飲まないで、疲れてしまう。
- 13 木で細工する者は測り縄で測り、朱で輪郭をとり、かんなで削り、コンパスで線を引き、人の形に造り、人間の立派な姿に仕上げ、神殿に安置する。
- 14 杉の木を切り、うばめ樫や樫の木を選んで、林の木の中で自分のために育てる。月桂樹を植えると、大雨がそれを生長させる。
- 15 それは人間のために薪になり、人はその一部を取って暖をとり、これを燃やしてパンを焼く。また、これで神を造って拝み、これを偶像に仕立てて、これにひれ伏す。
- 16 半分を火に燃やし、その半分の上で肉を食べ、肉をあぶって満腹する。また、温まって、『ああ、温まった。炎が見える』と言う。
- 17 その残りで神を造って自分の偶像とし、ひれ伏してそれを拝み、こう祈る。『私を救ってください。あなたは私の神だから』と。
- 18 彼らはよく知りもせず、理解もしない。その目はふさがれていて見ることもできず、その心が賢くなることはない。
- 19 彼らは考え直すこともなく、このように言う知識も英知もない。『私は、その半分を火に燃やし、その炭火の上でパンを焼き、肉をあぶって食べている。それなのに、その残りで忌み嫌うべきものを造り、木の切れ端の前にひれ伏すのか。』
- 20 灰を食物とする者は、心が欺かれ、惑わされて、自分を救い出せず、『私の右の手に偽りはなにか』とさえ言わない。
- 21 ヤコブよ、これらのことを心に留めよ。イスラエルよ、あなたはわたしのしもべ。わたしがあなたを形造った。あなたは、わたし自身のしもべだ。イスラエルよ、あなたはわたしに忘れられることがない。
- 22 わたしは、あなたの背きを雲のように、あなたの罪をかすみのように消し去った。わたしに帰れ。わたしがあなたを贖ったからだ。」
- 23 天よ、喜び歌え。主がこれを成し遂げられたから。地の底よ、喜び叫べ。山々よ、喜びの歌声をあげよ。林と、そのすべての木々も。主がヤコブを贖い、イスラエルのうちに栄光を現されたからだ。
- 24 あなたを贖い、あなたを母の胎内で形造った方、主はこう言われる。「わたしは万物を造った主である。わたしはひとりで天を延べ広げ、ただ、わたしだけで、地を押し広げた。
- 25 わたしは易者のしるしを打ち壊し、占い師を狂わせ、知恵ある者を退けて、その知識を愚かにする。
- 26 主のしもべのことばを成就させ、使者たちの計画を成し遂げさせる。エルサレムについては『人が住むようになる』と言い、ユダの町々については『町々は再建され、その廃墟はわたしが復興させる』と言う。
- 27 淵については『干上がれ。わたしはおまえの豊かな流れを涸らす』と言う。
- 28 キュロスについては『彼はわたしの牧者。わたしの望むことをすべて成し遂げる』と言う。エルサレムについては『再建される。神殿はその基が据えられる』と言う。」

## 第45章

- 1 主は、油注がれた者キュロスについて こう言われる。「わたしは彼の右手を握り、彼の前に諸国を下らせ、王たちの腰の帯を解き、彼の前に扉を開いて、その門を閉じさせないようにする。
- 2 わたしはあなたの前を進み、険しい地を平らにし、青銅の扉を打ち砕き、鉄のかんぬきをへし折る。
- 3 わたしは秘められている財宝と、ひそかなところに隠された宝をあなたに与える。それは、わたしが主であり、あなたの名を呼ぶ者、イスラエルの神であることを あなたが知るためだ。
- 4 わたしのしもベヤコブのため、わたしが選んだイスラエルのために、わたしはあなたを、あなたの名で呼ぶ。あなたはわたしを知らないが、わたしはあなたに肩書きを与える。
- 5 わたしが主である。ほかにはいない。わたしのほかに神はいない。あなたはわたしを知らないが、わたしはあなたに力を帯びさせる。
- 6 それは、日の昇る方からも西からも、わたしのほかには、だれもいないことを、人々が知るためだ。わたしが主である。ほかにはいない。
- 7 わたしは光を造り出し、闇を創造し、平和をつくり、わざわいを創造する。わたしは主、これらすべてを行う者。
- 8 天よ、上から滴らせよ。雲よ、義を降らせよ。地よ、開け。天地が救いを実らせるように。正義をともに芽生えさせよ。わたしは主。わたしがこれを創造した。」
- 9 ああ、自分を形造った方に抗議する者よ。陶器は土の器の一つにすぎないのに、粘土が自分を形造る者に言うだろうか。「何を作るのか」とか「あなたが作った物には手がついていない」と。
- 10 わざわいだ。自分の父に「なぜ子を生むのか」と言い、母に「なぜ産みの苦しみをするのか」と言う者。
- 11 イスラエルの聖なる方、これを形造った方、主はこう言われる。「これから起こることを、わたしに尋ねよ。わたしの子たちについて、またわたしの手のわざについて、あなたはわたしに命じるのか。
- 12 このわたしが地を造り、その上に人間を創造した。このわたしが手で天を延べ広げ、その万象に命じたのだ。
- 13 このわたしが義をもって彼を奮い立たせ、彼の道をことごとく平らにする。彼がわたしの都を建て直し、わたしの捕囚の民を解放する。代価を払ってでもなく、賄賂によってでもない。一万軍の主は言われる。」
- 14 主はこう言われる。「エジプトの産物とクシュの商品、それに背の高いセバ人も、あなたのところにやって来て、あなたのものとなる。彼らはあなたの後に従い、鎖につながれてやって来る。そして、あなたにひれ伏して、あなたに祈る。『神はただあなたのところにだけおられ、ほかにはなく、ほかに神々はいない』と。」
- 15 イスラエルの神、救い主よ。まことに、あなたはご自分を隠す神。
- 16 偶像を細工する者どもはみな 恥を見、辱めを受ける。彼らはともに、辱めのうちに去る。
- 17 イスラエルは主によって救われ、永遠の救いに入れられる。あなたがたは恥を見ることも辱めを受けることもない。永遠に至るまで。

- 18 天を創造した方、すなわち神、地を形造り、これを仕上げた方、これを堅く立てた方、これを茫漠としたものとして創造せず、住む所として形造った方、まことに、この主が言われる。「わたしは主。ほかにはいない。
- 19 わたしは隠れたところ、闇の地の場所で、語らなかった。茫漠としたところで、ヤコブの子孫に『わたしを尋ね求めよ』とは言わなかった。わたしは主。正義を語り、公正を告げる者。
- 20 諸国からの逃亡者たちよ。集まって来て、ともに近づけ。彼らは自分たちの木の偶像を担ぐ者、救えもしない神に祈る者たちで、知識がない。
- 21 告げよ。証拠を出せ。ともに相談せよ。だれが、これを昔から聞かせ、以前からこれを告げたのか。わたし、主ではなかったか。わたしのほかに神はいない。正しい神、救い主、わたしをおいて、ほかにはいない。
- 22 地の果てのすべての者よ。わたしを仰ぎ見て救われよ。わたしが神だ。ほかにはいない。
- 23 わたしは自分にかけて誓う。ことばは、義のうちにわたしの口から出て、決して戻ることはない。すべての膝はわたしに向かってかがめられ、すべての舌は誓い、
- 24 わたしについて、『ただ主にだけ、正義と力がある』と言う。主に向かっていきり立つ者はみな、主のもとに来て恥を見る。
- 25 イスラエルの子孫はみな 主によって義とされ、主を誇りとする。」

## 第46章

- 1 「ベルはひざまずき、ネボはかがむ。彼らの像は獣と家畜に載せられる。あなたがたの荷物は、疲れた動物の重荷となって運ばれる。
- 2 彼らはともにかがみ、ひざまずく。重荷を解くこともできず、自分自身も捕らわれの身となって行く。
- 3 ヤコブの家よ、わたしに聞け。イスラエルの家のすべての残りの者よ。胎内にいたときから担がれ、生まれる前から運ばれた者よ。
- 4 あなたがたが年をとっても、わたしは同じようにする。あなたがたが白髪になっても、わたしは背負う。わたしはそうしてきたのだ。わたしは運ぶ。背負って救い出す。
- 5 わたしをだれになぞらえて比べ、わたしをだれと並べて、なぞらえるのか。
- 6 袋から金を惜しげなく出し、銀を天秤で量る者たちは、金細工人を雇って、それで神を造り、ひざまずいては、これを拝む。
- 7 彼らはこれを肩に担いで運び、それがあったところに安置すると、それはそこに立ったままである。これはその場所から動かない。これに叫んでも答えず、苦しみから救ってもくれない。
- 8 このことを思い出し、勇み立て。背く者たちよ、心に思い返せ。
- 9 遠い大昔のことを思い出せ。わたしが神である。ほかにはいない。わたしのような神はいない。
- 10 わたしは後のことを初めから告げ、まだなされていないことを昔から告げ、『わたしの計画は成就し、わたしの望むことをすべて成し遂げる』と言う。
- 11 わたしは東から猛禽を、遠い地から、わたしの計画を行う者を呼ぶ。わたしは語って、それを来たらせ、計画を立てて、それを実行する。

- 12 わたしに聞け、頑なな者たちよ。正義から遠く離れている者たちよ。
- 13 わたしは、わたしの義を近づける。それは遠くはない。わたしの救いが遅れることはない。わたしはシオンに救いを、イスラエルにわたしの栄えを与える。」

## 第47章

- 1 「おとめ、娘バビロンよ。下って行って、土の上に座れ。娘カルデア人たちよ。王座のない地面に座れ。あなたはもう、優しい上品な女と呼ばれることはないからだ。
- 2 ひき臼を取って粉をひけ。ペールを取り去り、裾をまくってすねを出し、川を渡れ。
- 3 あなたの裸はあらわにされ、恥もさらされる。わたしは復讐をする。だれ一人容赦しない。」
- 4 私たちを贖う方、その名は万軍の主、イスラエルの聖なる方。
- 5 「娘カルデア人たちよ。黙って座り、闇に入れ。あなたはもう、国々の女王と呼ばれることはないからだ。
- 6 わたしは、わたしの民を怒って、わたしのゆずりの民を汚し、彼らをあなたの手に渡したが、あなたは彼らをあわれまず、老人にも、ひどく重いくびきを負わせた。
- 7 あなたは『いつまでも女王でいよう』と考えて、これらのことを心に留めず、自分の終わりのことを思うことさえしなかった。
- 8 だから今、これを聞け。楽しみにふけり、安心して住む女よ。心の中で、『私だけは特別だ。私はやもめにはならないし、子を失うことも知らなくてすむ』と言う者よ。
- 9 子を失うことと、やもめになること、この二つが一日のうちに、瞬く間にあなたのところにやって来る。あなたがどんなに多く呪術を行っても、どんなに呪文の力が強くとも、これらは突然あなたを見舞う。
- 10 あなたは自分の悪に抛り頼み、『私を見ている者はいない』と言う。あなたの知恵と知識、これがあなたを迷わせた。だから、あなたは心の中で言う。『私だけは特別だ。』
- 11 しかし、わざわいがあなたを見舞う。それを払いのける呪文をあなたは知らない。災難があなたを襲うが、あなたはそれを避けることができない。破滅は知らないうちに、突然あなたにやって来る。
- 12 さあ、若いときからの使い古しの呪文や多くの呪術を使って立ち上がれ。あるいは役立つかもしれない。脅かすことができるかもしれない。
- 13 助言する者が多すぎて、あなたは疲れている。さあ、天を観測する者、星を見る者、あなたに起こることを新月ごとに知らせる者を立たせて、あなたを救わせてみよ。
- 14 見よ。彼らは刈り株のようになり、火が彼らを焼き尽くす。彼らは自分のいのちを炎の手から救い出すこともできない。これは身を暖める炭火でもなく、その前に座れる火でもない。
- 15 あなたが若いときから仕え、取り引きしてきた者たちは、このようになる。彼らはそれぞれ自分勝手に迷い出る。あなたを救う者は一人もいない。」

## 第48章

- 1 これを聞け、ヤコブの家よ。あなたはイスラエルの名で呼ばれ、ユダの源から出て、主の御名によって誓い、イスラエルの神を呼び求めるが、真実をもってせず、また正義をもってし

ない。

- 2 実に彼らは聖なる都の出だと自称し、その名が万軍の主である イスラエルの神に寄りかかっている。
- 3 「かつて起こったことは、前からわたしが告げていた。それらはわたしの口から出て、わたしはそれらを聞かせた。にわかに、わたしは行い、それは成就した。
- 4 あなたが頑なであり、首筋は鉄の腱、額は青銅だと知っているのです、
- 5 わたしは、かねてからあなたに告げ、まだ起こらないうちに聞かせたのだ。『私の偶像がこれをした』とか『私の彫像や鑄た像がこれを命じた』とか あなたが言わないようにするためだ。
- 6 あなたは聞いた。さあ、これらすべてを見よ。あなたがたは告げ知らせないのか。わたしは今から、新しいことを、あなたの知らない秘め事をあなたに聞かせる。
- 7 それは今、創造された。ずっと前からではない。今日まで、あなたはこれを聞いたこともない。『ああ、私は知っていた』と あなたが言わないようにするためだ。
- 8 あなたは聞いたこともなく、知っていたこともない。ずっと前から、あなたの耳は開かれていなかった。わたしは、あなたが必ず裏切ることを、母の胎内にいるときから 背く者と呼ばれていたことを知っていたからだ。
- 9 わたしの名のために怒りを遅らせ、わたしの榮譽のためにそれを抑えて、わたしはあなたを絶ち滅ぼさなかった。
- 10 見よ。わたしはあなたを錬ったが、銀のようにではない。わたしは苦しみの炉であなたを試した。
- 11 わたしのため、わたしのために、わたしはこれを行う。どうしてわたしの名が汚されてよかろうか。わたしの栄光を、ほかの者に与えはしない。
- 12 わたしに聞け、ヤコブよ。わたしが呼び出したイスラエルよ。わたしがそれだ。わたしが初めであり、また、終わりである。
- 13 まことに、わたしの手が地の基を定め、わたしの右の手が天を延べ広げた。わたしが呼びかけると、それらはこぞって立ち上がる。
- 14 みな集まって聞け。彼らのうち、だれがこれらのことを告げたのか。主に愛される者が、主の喜ばれることをバビロンに行く。主の御腕はカルデア人に向かう。
- 15 わたしが、このわたしが語り、彼を呼んだのだ。わたしは彼を来させ、彼の行うことを成功させる。
- 16 わたしに近づいて、これを聞け。わたしは初めから、隠れたところでは語らなかった。それが起こったときから、わたしはそこにいた。」今、神である主は、私をその御霊とともに遣わされた。
- 17 イスラエルの聖なる方、あなたを贖う主はこう言われる。「わたしはあなたの神、主である。わたしはあなたに益になることを教え、あなたの歩むべき道にあなたを導く。
- 18 あなたがわたしの命令に耳を傾けてさえいれば、あなたの平安は川のように、正義は海の波のようになったであろうに。
- 19 あなたの子孫は砂のように、あなたの身から出る者は真砂のようになったであろうに。その名はわたしの前から断たれることも、滅ぼされることもなかったであろうに。」

- 20 バビロンから出よ。カルデアから逃れよ。喜びの声をあげて、これを告げ、聞かせよ。地の果てにまで響き渡らせよ。「主が、そのしもべヤコブを贖われた」と言え。
- 21 主が荒れ果てた地を通らされたときも、彼らは渴くことがなかった。主は彼らのために岩から水を流れ出させ、岩を裂いて水をほとばしり出させられた。
- 22 「悪しき者には平安がない。」主はそう言われる。

## 第49章

- 1 島々よ、私に聞け。遠い国々の民よ、耳を傾けよ。主は、生まれる前から私を召し、母の胎内にいたときから私の名を呼ばれた。
- 2 主は私の口を鋭い剣のようにし、御手の陰に私をかくまい、私を研ぎ澄まされた矢とし、主の矢筒の中に私を隠された。
- 3 そして、私に言われた。「あなたはわたしのしもべ。イスラエルよ、わたしはあなたのうちに、わたしの栄光を現す。」
- 4 しかし私は言った。「私は無駄な骨折りをして、いたずらに空しく自分の力を使い果たした。それでも、私の正しい訴えは主とともにあり、私の報いは私の神とともにある。」
- 5 今、主は言われる。ヤコブをご自分のもとに帰らせ、イスラエルをご自分のもとに集めるために、母の胎内で私を ご自分のしもべとして形造った方が言われる。私は主の御目に重んじられ、私の神は私の力となられた。
- 6 主は言われる。「あなたがわたしのしもべであるのは、ヤコブの諸部族を立たせ、イスラエルのうちの残されている者たちを 帰らせるという、小さなことのためだけではない。わたしはあなたを国々の光とし、地の果てにまでわたしの救いをもたらす者とする。」
- 7 イスラエルを贖う方、その聖なる方、主は、人に蔑まれている者、国民に忌み嫌われている者に、支配者たちの奴隷に向かってこう言われる。「王たちは見て立ち上がり、首長たちもひれ伏す。真実である主、あなたを選んだイスラエルの聖なる者のゆえに。」
- 8 主はこう言われる。「恵みの時に、わたしはあなたに答え、救いの日に、わたしはあなたを助ける。わたしはあなたを見守り、あなたを民の契約とし、国を復興して、荒れ果てたゆずりの地を受け継がせる。
- 9 わたしは捕らわれ人には『出よ』と言ひ、闇の中にいる者には『姿を現せ』と言う。彼らは道すがら羊を飼ひ、裸の丘のいたるところが彼らの牧場となる。
- 10 彼らは飢えず、渴かず、炎熱も太陽も彼らを打たない。彼らをあわれむ者が彼らを導き、湧き出る水のほとりに連れて行くからだ。
- 11 わたしは、わたしの山々をすべて道とし、わたしの大路を高くする。
- 12 見よ。ある者は遠くから来る。見よ。ある者は北から西から、また、ある者はシニムの地から来る。」
- 13 天よ、喜びの声をあげよ。地よ、小躍りせよ。山々よ、歡喜の声をあげよ。主がご自分の民を慰め、その苦しむ者をあわれまれるからだ。
- 14 しかし、シオンは言った。「主は私を見捨てた。主は私を忘れた」と。
- 15 「女が自分の乳飲み子を忘れるだろうか。自分の胎の子をあわれまないだろうか。たとえ女たちが忘れても、このわたしは、あなたを忘れない。
- 16 見よ、わたしは手のひらにあなたを刻んだ。あなたの城壁は、いつもわたしの前にある。

- 17 あなたの子どもたちは急いでやって来る。あなたを破壊し、廃墟とした者たちは、あなたのところから出て行く。
- 18 目を上げて、あたりを見回せ。彼らはみな集まって、あなたのところに来る。わたしは生きている―主のことば―。あなたは必ず、彼らをみな飾り物として身に着け、花嫁のように彼らを帯に結ぶ。
- 19 あなたの廃墟と荒れ跡と滅びた地は、今に、住むには狭すぎるようになり、あなたを呑み込んだ者たちは遠くへ離れ去る。
- 20 あなたが子を失った後に生まれた子らが、再びあなたの耳に言う。『この場所は私には狭すぎる。私が住めるように場所を広くしてください』と。
- 21 そのとき、あなたは心の中で言うだろう。『だれが私に、この者たちを産んでくれたのだろう。私は子に死なれた女、子を産めない女、捕囚のさすらい人であったのに。だれがこの者たちを育てたのだろう。私は、ただひとり残されていたのに、この者たちはどこから来たのだろう。』
- 22 神である主はこう言われる。「見よ。わたしは国々に向かって手を上げ、わたしの旗を諸国の民に向かって掲げる。彼らは、あなたの息子たちを懐に抱いて来る。あなたの娘たちは肩に担がれて来る。
- 23 王たちはあなたの世話をする者となり、王妃たちはあなたの乳母となる。彼らは顔を地に付けて、あなたを伏し拝み、あなたの足のちりをなめる。あなたは、わたしが主であることを知る。わたしを待ち望む者は恥を見ることがない。」
- 24 奪われた物を勇士から取り戻せるだろうか。捕らわれ人を横暴な者から救い出せるだろうか。
- 25 まことに、主はこう言われる。「捕らわれ人は勇士から取り戻され、奪われた物も横暴な者から奪い返される。あなたが争う者と、このわたしが争い、あなたの子らを、このわたしが救う。
- 26 わたしは、あなたを虐げる者に彼ら自身の肉を食らわせる。彼らは甘いぶどう酒に酔うように、自分自身の血に酔う。すべての肉なる者が、わたしが主、あなたの救い主、あなたの贖い主、ヤコブの力強き者であることを知る。」

## 第50章

- 1 主はこう言われる。「わたしがあなたがたの母を追い出したという離縁状はどこにあるのか。わたしがあなたがたを売ったという、わたしの債権者とはだれなのか。見よ。あなたがたは自分たちの咎のために売られ、自分たちの背きのために、母は追い出されたのだ。
- 2 なぜ、わたしが来たときだれもいなかったのか。わたしが呼んだのに、だれも答えなかったのか。わたしの手が短くて贖うことができないのか。わたしには救い出す力がないというのか。見よ。わたしは叱って海を干上がらせ、多くの川を荒野とする。その魚は水がなくて臭くなり、湯きのために死に絶える。
- 3 わたしは天を闇でおおい、粗布をその覆いとする。」
- 4 神である主は、私に弟子の舌を与え、疲れた者をことばで励ますことを教え、朝ごとに私を呼び覚まし、私の耳を呼び覚まして、私が弟子として聞くようにされる。
- 5 神である主は私の耳を開いてくださった。私は逆らわず、うしろに退きもせず、

- 6 打つ者に背中を任せ、ひげを抜く者に頬を任せ、侮辱されても、唾をかけられても、顔を隠さなかった。
- 7 しかし、神である主は私を助けてくださる。それゆえ、私は侮辱されることがない。それゆえ、私は顔を火打石のようにして自分が恥を見ないことを知っている。
- 8 私を義とする方が近くにいてくださる。だれが私と争うのか。さあ、ともに立とう。だれが私をさばく者となるのか。私のところに出て来るがよい。
- 9 見よ。神である主が私を助けてくださる。だれが私を不義に定めるのか。見よ。彼らはみな衣のように古び、シミが彼らを食い尽くす。
- 10 あなたがたのうちで主を恐れ、主のしもべの声に聞き従うのはだれか。闇の中を歩くのに光を持たない人は、主の御名に信頼し、自分の神に拠り頼め。
- 11 見よ。あなたがたはみな、火をともし、燃えさしを身に帯びている。あなたがたは自分たちの火の明かりを持ち、火をつけた燃えさしを持って歩くがよい。このことは、わたしの手によってあなたがたに起こり、あなたがたは苦悶の場所で伏し倒れる。

## 第51章

- 1 「義を追い求める者、主を尋ね求める者よ、わたしに聞け。あなたがたが切り出された岩、掘り出された穴に目を留めよ。
- 2 あなたがたの父アブラハムと、あなたがたを産んだサラのことを考えてみよ。わたしが彼一人を呼び出し、彼を祝福し、彼を増やしたのだ。
- 3 まことに、主はシオンを慰め、そのすべての廃墟を慰めて、その荒野をエデンのようにし、その砂漠を主の園のようにする。そこには楽しみと喜びがあり、感謝と歌声がある。
- 4 わたしの民よ、わたしに心を留めよ。わたしの国民よ、わたしに耳を傾けよ。おしえはわたしのもとから出て、わたしが、わたしのさばきを 諸国の民の光と定めるからだ。
- 5 わたしの義は近く、わたしの救いは現れた。わたしの腕は諸国の民をさばく。鳥々はわたしを待ち望み、わたしの腕に期待をかける。
- 6 目を天に上げよ。また、下の地を見よ。まことに、天は煙のように消え失せ、地も衣のように古びて、その上に住む者はブヨのように死ぬ。しかし、わたしの救いはとこしえに続き、わたしの義は絶えることがない。
- 7 義を知る者たちよ、わたしに聞け。心にわたしのおしえを持つ民よ、人のそしりを恐れるな。彼らの、ののしりにくじけるな。
- 8 まことに、シミが彼らを衣のように食い尽くし、虫が彼らを羊毛のように食い尽くす。しかし、わたしの義はとこしえに続き、わたしの救いは代々にわたる。」
- 9 目覚めよ、目覚めよ。力をまといえ、主の御腕よ。目覚めよ。昔の日、いにしえの代のように。ラハブを切り刻み、竜を刺し殺したのは、あなたではないか。
- 10 海を、大いなる淵の水を干上がらせ、海の底に道を設けて、贖われた人々を通るようにしたのは、あなたではないか。
- 11 主に贖われた者たちは帰って来る。彼らは喜び歌いながらシオンに入り、その頭には、とこしえの喜びを戴く。楽しみと喜びがついて来て、悲しみと嘆きは逃げ去る。
- 12 「わたし、わたしこそ、あなたがたを慰める者。あなたは何者なのか。死ななければならぬ人間や、草にも等しい人の子を恐れるとは。

- 13 天を延べ広げ、地の基を定め、あなたを造った主を、あなたは忘れ、一日中、絶えず、虐げる者の憤りにおののいている。まるで滅びに定められているかのように。その虐げる者の憤りはどこにあるのか。
- 14 うずくまる捕らわれ人もすぐに解き放たれ、死んで穴に下ることはなく、パンにも事欠かない。
- 15 わたしはあなたの神、主。海をかき立て、波をとどろかせる。その名は万軍の主。
- 16 わたしのことばをあなたの口に置き、この手の陰にあなたをかばい、天を置き、地の基を定め、『あなたはわたしの民だ』とシオンに言う。」
- 17 目覚めよ、目覚めよ。エルサレムよ、立ち上がれ。あなたは主の手から憤りの杯を飲み、よろめかす大杯を飲み干した。
- 18 彼女が産んだすべての子らのうち、だれも彼女を導く者はなく、彼女が育てたすべての子らのうち、だれも彼女の手を取る者はない。
- 19 これら二つのことがあなたを見舞った。だれがあなたのために嘆くだろうか。暴行と破滅、飢饉と剣。どのようにして、あなたを慰めようか。
- 20 あなたの子たちは気を失い、すべての通りで倒れ伏す。網にかかった大かもしかのように。彼らには、主の憤りと、あなたの神のとがめが満ちている。
- 21 それゆえ、さあ、これを聞け。苦しむ者よ。酔っていても酒のせいでない者よ。
- 22 あなたの主、ご自分の民を弁護するあなたの神、主はこう言われる。「見よ。わたしはあなたの手から、よろめかす杯を取り上げた。あなたはわたしの憤りの大杯を もう二度と飲むことはない。
- 23 わたしはこれを、あなたを悩ます者たちの手に渡す。彼らは、かつてあなたに『ひれ伏せ。われわれは乗り越えて行こう』と言った。それで、あなたは背中を地面のように、また歩道のようにして、彼らが乗り越えて行くのに任せた。」

## 第52章

- 1 目覚めよ、目覚めよ。力をまとえ、シオンよ。あなたの美しい衣をまとえ、聖なる都エルサレムよ。無割礼の汚れた者は、もう二度とあなたの中に入っては来ない。
- 2 ちりを払い落として立ち上がり、元の座に着け、エルサレムよ。あなたの首からかせを振りほどけ、捕らわれの女、娘シオンよ。
- 3 まことに、主はこう言われる。「あなたがたは、ただで売られた。だから、金を払わずに買い戻される」と。
- 4 まことに、神である主はこう言われる。「わたしの民は初め、エジプトに下って行って、そこに寄留した。また、アッシリア人がゆえなく彼らを苦しめた。
- 5 さあ今、ここでわたしは何をしよう—主のことば—。わたしの民はただで奪い取られ、彼らの支配者たちは悲しみ嘆いている—主のことば—。また、わたしの名は一日中、絶えず侮られている。
- 6 それゆえ、わたしの民はわたしの名を知るようになる。それゆえ、その日彼らは、わたしが『ここにわたしがいる』と告げる者であることを知るようになる。」
- 7 良い知らせを伝える人の足は、山々の上にあって、なんと美しいことか。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、「あなたの神は王であられる」とシオン

に言う人の足は。

- 8 あなたの見張りの声がある。彼らは声を張り上げ、ともに喜び歌っている。彼らは、主がシオンに戻られるのを 目の当たりにするからだ。
- 9 エルサレムの廃墟よ、ともに大声をあげて喜び歌え。主がその民を慰め、エルサレムを贖われたからだ。
- 10 主はすべての国々の目の前に 聖なる御腕を現された。地の果てのすべての者が 私たちの神の救いを見る。
- 11 去れ、去れ。そこから出て行け。汚れたものに触れてはならない。その中から出て行き、身を清めよ。主の器を運ぶ者たちよ。
- 12 あなたがたは慌てて出なくてもよい。逃げるように去らなくてもよい。主があなたがたの前を進み、イスラエルの神がしんがりとなられるからだ。
- 13 「見よ、わたしのしもべは栄える。彼は高められて上げられ、きわめて高くなる。
- 14 多くの者があなたを見て驚き恐れたように、その顔だちは損なわれて人のようではなく、その姿も人の子らとは違っていった。
- 15 そのように、彼は多くの国々に血を振りまく。王たちは彼の前で口をつぐむ。彼らが告げられていないことを見、聞いたこともないことを悟るからだ。」

## 第53章

- 1 私たちが聞いたことを、だれが信じたか。主の御腕はだれに現れたか。
- 2 彼は主の前に、ひこばえのように生え出た。砂漠の地から出た根のように。彼には見るべき姿も輝きもなく、私たちが慕うような見栄えもない。
- 3 彼は蔑まれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で、病を知っていた。人が顔を背けるほど蔑まれ、私たちも彼を尊ばなかった。
- 4 まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みを担った。それなのに、私たちは思った。神に罰せられ、打たれ、苦しめられたのだと。
- 5 しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。
- 6 私たちはみな、羊のようにさまよい、それぞれ自分勝手な道に向かって行った。しかし、主は私たちすべての者の咎を 彼に負わせた。
- 7 彼は痛めつけられ、苦しんだ。だが、口を開かない。屠り場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。
- 8 虐げとさばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことか。彼が私の民の背きのゆえに打たれ、生ける者の地から絶たれたのだと。
- 9 彼の墓は、悪者どもとともに、富む者とともに、その死の時に設けられた。彼は不法を働かず、その口に欺きはなかったが。
- 10 しかし、彼を砕いて病を負わせることは 主のみこころであった。彼が自分のいのちを 代償のささげ物とするなら、末長く子孫を見ることができ、主のみこころは彼によって成し遂げられる。
- 11 「彼は自分のたましいの 激しい苦しみのあとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を負う。

- 12 それゆえ、わたしは多くの人を彼に分け与え、彼は強者たちを戦勝品として分かち取る。彼が自分のいのちを死に明け渡し、背いた者たちとともに数えられたからである。彼は多くの人の罪を負い、背いた者たちのために、とりなしをする。」

## 第54章

- 1 「子を産まない不妊の女よ、喜び歌え。産みの苦しみを知らない女よ、喜び叫べ。夫に捨てられた女の子どもは、夫のある女の子どもよりも多いからだ。—主は言われる—
- 2 あなたの天幕の場所を広げ、住まいの幕を惜しみなく張り、綱を長くし、杭を強固にせよ。
- 3 あなたは右と左に増え広がり、あなたの子孫は国々を所有し、荒れ果てた町々を人の住む所とするからだ。
- 4 恐れるな。あなたは恥を見ないから。恥じるな。あなたは辱めを受けないから。まことに、あなたは若いときの恥を忘れ、やもめ時代の屈辱を再び思い出すことはない。
- 5 なぜなら、あなたの夫はあなたを造った者、その名は万軍の主。あなたの贖い主はイスラエルの聖なる者、全地の神と呼ばれているからだ。
- 6 主はあなたを、夫に捨てられた、心に悲しみのある女と呼んだが、若いころの妻をどうして見捨てられるだろうか。—あなたの神は仰せられる—
- 7 わたしはほんの少しの間、あなたを見捨てたが、大いなるあわれみをもって、あなたを集める。
- 8 怒りがあふれて、少しの間、わたしは、顔をあなたから隠したが、永遠の真実の愛をもって、あなたをあわれむ。—あなたを贖う方、主は言われる。
- 9 これは、わたしにはノアの日のような。ノアの洪水が、再び地にやって来ることはない、わたしは誓った。そのように、わたしはあなたを怒らず、あなたを責めないと、わたしは誓う。
- 10 たとえ山が移り、丘が動いても、わたしの真実の愛はあなたから移らず、わたしの平和の契約は動かない。—あなたをあわれむ方、主は言われる。
- 11 苦しめられ、嵐にもてあそばれ、慰められなかった女よ。見よ。わたしはアンチモンであなたの石をおおい、サファイアであなたの基を定める。
- 12 あなたの塔を紅玉にし、あなたの門をきらめく石にし、あなたの境をすべて宝石にする。
- 13 あなたの子たちはみな、主によって教えられ、あなたの子たちには豊かな平安がある。
- 14 あなたは義によって堅く立てられる。虐げから離れていよ。恐れることはない。恐怖から離れていよ。それが近づくことはない。
- 15 見よ。攻め寄せる者があっても、それはわたしから出たのではない。あなたに攻め寄せる者は、あなたの前に倒れる。
- 16 見よ。炭火を吹きおこし武器を作り出す職人を創造したのは、わたしである。それを壊す破壊者を創造したのもわたしである。
- 17 あなたを攻めるために作られる武器は、どれも役に立たなくなる。また、あなたを責め立てるどんな舌も、さばきのときに、あなたがそれを不義に定める。これが、主のしもべたちの受け継ぐ分、わたしから受ける彼らの義である。—主のことば。」

## 第55章

- 1 「ああ、渴いている者はみな、水を求めて出て来るがよい。金のない者も。さあ、穀物を買って食べよ。さあ、金を払わないで、穀物を買え。代価を払わないで、ぶどう酒と乳を。
- 2 なぜ、あなたがたは、食糧にもならないもののために金を払い、腹を満たさないもののために労するのか。わたしによく聞き従い、良いものを食べよ。そうすれば、あなたがたは脂肪で元気づく。
- 3 耳を傾け、わたしのところに出て来い。聞け。そうすれば、あなたがたは生きる。わたしはあなたがたと永遠の契約を結ぶ。それは、ダビデへの確かで真実な約束である。
- 4 見よ。わたしは彼を諸国の民への証人とし、諸国の民の君主とし、司令官とした。
- 5 見よ。あなたが、あなたの知らない国民を呼び寄せると、あなたを知らない国民が、あなたのところに走って来る。これは、あなたの神、主、イスラエルの聖なる者のゆえである。主があなたを輝かせたからだ。」
- 6 主を求めよ、お会いできる間に。呼び求めよ、近くにおられるうちに。
- 7 悪しき者は自分の道を、不法者は自分のはかりごとを捨て去れ。主に帰れ。そうすれば、主はあわれんでくださる。私たちの神に帰れ。豊かに赦してくださるから。
- 8 「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、あなたがたの道は、わたしの道と異なるからだ。—主のことば—
- 9 天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。
- 10 雨や雪は、天から降って、もとに戻らず、地を潤して物を生えさせ、芽を出させて、種蒔く人に種を与え、食べる人にパンを与える。
- 11 そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、わたしのところに、空しく帰って来ることはない。それは、わたしが望むことを成し遂げ、わたしが言い送ったことを成功させる。
- 12 まことに、あなたがたは喜びをもって出て行き、平安のうちに導かれて行く。山と丘は、あなたがたの前で喜びの歌声をあげ、野の木々もみな、手を打ち鳴らす。
- 13 茨の代わりに、もみの木が生え、おどろの代わりにミルトスが生える。これは主の記念となり、絶えることのない永遠のしるしとなる。」

## 第56章

- 1 主はこう言われる。「公正を守り、正義を行え。わたしの救いが来るのは近いからだ。わたしの義が現れるのも。」
- 2 幸いなことよ。安息日を守って、これを汚さず、どんな悪事からもその手を守る人は。このように行う人、このことを堅く保つ人の子は。
- 3 主に連なる異国の民は言うてはならない。「主はきっと、私をその民から切り離される」と。宦官も言うてはならない。「ああ、私は枯れ木だ」と。
- 4 なぜなら、主がこう言われるからだ。「わたしの安息日を守り、わたしの喜ぶことを選び、わたしの契約を堅く保つ宦官たちには、

- 5 わたしの家、わたしの城壁の内で、息子、娘にもまさる記念の名を与え、絶えることのない永遠の名を与える。
- 6 また、主に連なって主に仕え、主の名を愛して、そのしもべとなった異国の民が、みな安息日を守ってこれを汚さず、わたしの契約を堅く保つなら、
- 7 わたしの聖なる山に来させて、わたしの祈りの家で彼らを楽しませる。彼らの全焼のささげ物やいけにえは、わたしの祭壇の上で受け入れられる。なぜならわたしの家は、あらゆる民の祈りの家と呼ばれるからだ。
- 8 —イスラエルの散らされた者たちを集める方、神である主のことば—すでに集められた者たちに、わたしはさらに集めて加える。」
- 9 野のすべての獣よ。やって来て貪り食うがよい。林の中のすべての獣も。
- 10 神の見張り人は目が見えず、みな何も知らない。彼らはみな口のきけない犬、ほえることもできない。あえいで、横になり、眠りを貪る。
- 11 この犬どもは貪欲で、足ることを知らない。彼らは牧者なのに、悟ることがない。だれもがみな、自分勝手な道に向かって行く。一人残らず、自分の利得に。
- 12 「やって来い。ぶどう酒を持って来るから、強い酒を浴びるほど飲もう。明日も今日と同じだろう。もっと、素晴らしいかもしれない。」

## 第57章

- 1 「義人は滅びるが、心に留める者はいない。誠実な人は取り去られるが、気づく者はいない。義人は、わざわざを前にして取り去られる。
- 2 その人は平安に入り、まっすぐに歩む人は、自分の寢床で休むことができる。
- 3 しかし、あなたがた、女卜者の子ら、姦夫と遊女の子孫よ。ここに近寄れ。
- 4 あなたがたは、だれをからかい、だれに向かって口を大きく開き、舌を出すのか。あなたがたは背きの子、偽りの末裔ではないか。
- 5 あなたがたは、櫛の木の間や、青々と茂るあらゆる木の下で、身を焦がし、谷や、岩の裂け目で子どもを屠っているではないか。
- 6 谷川の滑らかな石があなたの分、それら、それらこそが、あなたの受ける割り当て。それらに、あなたは注ぎのぶどう酒を注ぎ、穀物のささげ物を献げているが、こんな物で、わたしが慰められるだろうか。
- 7 そびえる高い山の上に、あなたは寢床を設け、そこにも上って行って、いけにえを献げた。
- 8 あなたは、扉と柱のうしろに、自分を記念する像を置いた。あなたはわたしを捨てて裸になり、そこに上って自分の寢床を広げ、彼らと契りを結び、彼らの寢床を愛し、彼らの象徴物を見た。
- 9 あなたは油を携えて王のところまで旅し、香料を増し加え、使者たちを遠くまで送り出し、よみにまでも下らせた。
- 10 あなたは、長い旅に疲れても、『あきらめた』とは言わなかった。あなたは元気を回復し、それで弱らなかった。
- 11 あなたは、だれにおじけ、だれを恐れて、まやかしを言うのか。あなたはわたしのことを思い出さず、心にも留めなかった。わたしが久しく黙っていたので、わたしを恐れないのではないか。

- 12 わたしは、あなたの義のわざと、あなたの行いの数々を告げよう。しかし、それらはあなたにとって役には立たない。
- 13 あなたが叫ぶとき、あなたが集めたものどもに、あなたを救わせよ。風が、それらをみな運び去り、もやがそれらを連れ去ってしまう。しかし、わたしに身を寄せる者は、地を受け継ぎ、わたしの聖なる山を所有することができる。
- 14 「主は言われる― 盛り上げよ。土を盛り上げて、道を整えよ。わたしの民の道から、つまずきを取り除け。」
- 15 いと高くあがめられ、永遠の住まいに住み、その名が聖である方が、こう仰せられる。「わたしは、高く聖なる所に住み、砕かれた人、へりくだった人とともに住む。へりくだった人たちの霊を生かし、砕かれた人たちの心を生かすためである。
- 16 わたしは、永遠に争うことはなく、いつまでも怒ってはいない。わたしから出た霊が衰え果てるからだ。わたしが造ったいのちの息が。
- 17 彼の不正な利得の咎のために、わたしは怒った。わたしは顔を隠して彼を打ち、そして怒った。しかし彼はなお背いて、自分の思う道を行った。
- 18 彼の道を見たが、それでもわたしは彼を癒やす。わたしは彼を導いて、彼とその嘆き悲しむ者たちに、慰めを報いる。
- 19 わたしは唇の実を創造する者。平安あれ。遠くの者にも近くの者にも平安あれ。わたしは彼を癒やす。―主は言われる―
- 20 しかし、悪しき者は荒れ狂う海のような。まことに、それは鎮まることができず、その水は海草と泥を吐き出す。
- 21 悪しき者には平安がない。―私の神はそう仰せられる。」

## 第58章

- 1 「精一杯大声で叫べ。角笛のように声をあげよ。わたしの民に彼らの背きを、ヤコブの家にその罪を告げよ。
- 2 このわたしを、彼らは日ごとに求め、わたしの道を知ることを望んでいる。義を行い、神の定めを捨てたことのない国のように、彼らは正しいさばきをわたしに求め、神に近づくことを望んでいる。
- 3 『なぜあなたは、私たちが断食したのに、ご覧にならず、自らを戒めたのに、認めてくださらないのですか。』見よ。あなたがたは断食の日に自分の好むことをし、あなたがたの労働者をみな、追い立てる。
- 4 見よ。あなたがたが断食をするのは、争いとけんかのためであり、不当に拳で殴るためだ。あなたがたが今のように断食するのでは、いと高き所に、その声は届かない。
- 5 わたしの好む断食、人が自らを戒める日とは、このようなものだろうか。葦のように頭を垂れ、粗布と灰を敷き広げることなのか。これを、あなたがたは断食と呼び、主に喜ばれる日と呼ぶのか。
- 6 わたしの好む断食とはこれではないか。悪の束縛を解き、くびきの縄目をほどき、虐げられた者たちを自由の身とし、すべてのくびきを砕くことではないか。
- 7 飢えた者にあなたのパンを分け与え、家のない貧しい人々を家に入れ、裸の人を見てこれに着せ、あなたの肉親を顧みることではないか。

- 8 そのとき、あなたの光が暁のように輝き出て、あなたの回復は速やかに起こる。あなたの義はあなたの前を進み、主の栄光があなたのしんがりとなる。
- 9 そのとき、あなたが呼ぶと主は答え、あなたが叫び求めると、『わたしはここにいる』と主は言う。もし、あなたの間から、くびきを除き去り、虐げの指をさすことや、邪悪なことは取り去り、
- 10 飢えた者に心を配り、苦しむ者の願いを満たすなら、あなたの光は闇の中に輝き上り、あなたの暗闇は真昼のようになる。
- 11 主は絶えずあなたを導いて、焼けつく土地でも食欲を満たし、骨を強くする。あなたは、潤された園のように、水の涸れない水源のようになる。
- 12 あなたのうちのある者は、昔の廃墟を建て直し、あなたは代々にわたる礎を築き直し、『破れを繕う者、通りを住めるように回復する者』と呼ばれる。
- 13 もし、あなたが安息日に出歩くことをやめ、わたしの聖日に自分の好むことをせず、安息日を『喜びの日』と呼び、主の聖日を『栄えある日』と呼び、これを尊んで、自分の道を行かず、自分の好むことを求めず、無駄口を慎むなら、
- 14 そのとき、あなたは主をあなたの喜びとする。わたしはあなたに地の高い所を踏み行かせ、あなたの父ヤコブのゆずりの地であなたを養う。一主の御口がそう語られる。」

## 第59章

- 1 見よ。主の手が短くて救えないのではない。その耳が遠くて聞こえないのではない。
- 2 むしろ、あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。
- 3 実に、あなたがたの手は血で、指は咎で汚れている。あなたがたの唇は偽りを語り、舌は不正を告げる。
- 4 義をもって訴える者はなく、真実をもって弁護する者もない。空しいことに頼り、嘘を言い、邪悪をはらみ、不正を産む。
- 5 彼らは、まむしの卵をかえし、くもの巣を織る。その卵を食べる者は死に、卵をつぶすと毒蛇が飛び出す。
- 6 そのくもの巣は衣にはならず、自分の作ったもので身をおおうこともできない。彼らのわざは不義のわざ、暴虐の行いがその手にある。
- 7 その足は悪に走り、咎なき者の血を流すのに速い。その思いは不義の思い。暴行と破滅が彼らの大路にある。
- 8 彼らは平和の道を知らず、その道筋には公正がない。自分の通り道を曲げ、そこを歩む者はだれも平和を知らない。
- 9 それゆえ、公正は私たちから遠く離れ、義は私たちに届かない。私たちは光を待ち望んでいたが、見よ、闇。輝きを待ち望んでいたが、歩くのは暗闇の中。
- 10 私たちは見えない人のように壁を手さぐりし、目が無いかのように手さぐりする。真昼でも、たそがれ時のようにつまずき、強健な者の中にいる死人のようだ。
- 11 私たちはみな、熊のようにうなり、鳩のようにぶつぶつうめく。公正を待ち望むが、それはなく、救いを待ち望むが、私たちから遠く離れている。

- 12 それは、私たちの背きが御前で多くなり、私たちの罪が不利な証言をするからだ。まことに、私たちの背きは私たちとともにあり、私たちは自分の咎をよく知っている。
- 13 私たちは主に背き、主を否んで、私たちの神に従うことをやめ、虐げと反逆を語り、心に偽りのことばをはらんで告げる。
- 14 こうして公正は退けられ、正義は遠く離れて立っている。それは、真理が広場をつまずき、正直さが中に入ることもできないからだ。
- 15 そこでは真理は失われ、悪から遠ざかっている者も略奪される。主はこれを見て、公正がないことに心を痛められた。
- 16 主は人がいないのを見て、とりなす者がいないことに啞然とされた。それで、ご自分の御腕で救いをもたらし、ご自分の義を支えとされた。
- 17 主は義をよろいのように着て、救いのかぶとを頭にかぶり、復讐の衣を身にまとい、ねたみを外套として身をおおわれた。
- 18 主は彼らの仕打ちに応じて報い、はむかう者に憤り、敵に報復し、島々にも報復をされる。
- 19 そうして、西の方では主の御名が、日の昇る方では主の栄光が恐れられる。それは、主が激しい流れのように来られ、その中で主の息が吹きまくっているからだ。
- 20 「しかし、シオンには贖い主として来る。ヤコブの中の、背きから立ち返る者のところに。一主のことば。」
- 21 「これは、彼らと結ぶわたしの契約である—主は言われる—。あなたの上にあるわたしの霊、わたしがあなたの口に置いたわたしのことばは、あなたの口からも、あなたの子孫の口からも、子孫の子孫の口からも、今よりとこしえに離れない—主は言われる。」

## 第60章

- 1 「起きよ。輝け。まことに、あなたの光が来る。主の栄光があなたの上に輝く。
- 2 見よ、闇が地をおおっている。暗黒が諸国の民を。しかし、あなたの上には主が輝き、主の栄光があなたの上に現れる。
- 3 国々はあなたの光のうちを歩み、王たちはあなたの輝きに照らされて歩む。
- 4 目を上げて、あたりを見渡せ。彼らはみな集まって、あなたのもとに来る。あなたの息子たちは遠くから来る。娘たちは脇に抱かれながら。
- 5 そのとき、あなたはこれを見て晴れやかになり、心は震えて、喜ぶ。それは、海の富があなたのところに移され、国々の財宝もあなたのもとに来るからだ。
- 6 らくだの大群が、ミディアンとエファの若いらくだが、あなたのところをおおい尽くす。これらシェバから来るものはみな、金と乳香を携えて、主の誉れを宣べ伝える。
- 7 ケダルの羊もみな、あなたのもとに集まり、ネバヨテの雄羊は、あなたに仕える。これは受け入れられ、わたしの祭壇に献げられる。わたしは、わたしの輝かしい家をさらに輝かす。
- 8 雨雲のように飛ぶ者、鳩のように巣に帰る者はだれか。
- 9 まことに、島々はわたしを待ち望み、タルシシュの船は真っ先に、あなたの子らを遠くから運んで来る。彼らの銀と金とともに。それは、あなたの神、主の名のため、イスラエルの聖なる者のためであり、主があなたを輝かせたからである。
- 10 異国の民もあなたの城壁を築き直し、その王たちもあなたに仕える。わたしは激しく怒って、あなたを打ったが、恵みをもって、あなたをあわれむからだ。

- 11 あなたの門はいつも開かれ、 昼も夜も閉じられない。 国々の財宝があなたのところに運ばれ、 その王たちが導かれて来るためである。
- 12 あなたに仕えない国民や王国は滅び、 これらの国々は荒れ果てる。
- 13 レバノンの栄光は、もみの木、すずかけ、檜も、ともに、あなたのもとに来て、わたしの聖所を輝かせる。 わたしは、自分の足台を栄光あるものとする。
- 14 あなたを苦しめた者たちの子らは、身をかがめてあなたのところに来る。 あなたを侮った者どもはみな、あなたの足もとにひれ伏して、あなたを『主の都、イスラエルの聖なる方のシオン』と呼ぶ。
- 15 あなたは捨てられ、憎まれて、通り過ぎる人もなかったが、わたしはあなたを永遠の誇り、代々の喜びに変える。
- 16 あなたは国々の乳を吸い、王たちの乳房を吸う。 あなたは、わたしが主、あなたを救う者、あなたを贖う者、ヤコブの力強き者であることを知る。
- 17 わたしは青銅の代わりに金を運び入れ、鉄の代わりに銀、木の代わりに青銅、石の代わりに鉄を運び入れ、平和をあなたの管理者とし、正義をあなたの監督者とする。
- 18 あなたの国には暴虐はもう聞かれず、あなたの領土には暴行と破滅は聞かれない。 あなたは、あなたの城壁を救いと呼び、あなたの門を賛美と呼ぶ。
- 19 太陽はもはや、あなたの昼の光とはならず、月の明かりもあなたを照らさない。 主があなたの永遠の光となり、あなたの神があなたの輝きとなる。
- 20 あなたの太陽はもう沈むことがなく、あなたの月は陰ることがない。 主があなたの永遠の光となり、あなたの嘆き悲しむ日が終わるからである。
- 21 あなたの民はみな正しい者となり、永遠にその地を所有する。 彼らは栄光を現す、わたしが植えた枝。 わたしの手で造ったもの。
- 22 最も小さい者も軍団となり、最も弱い者も強国となる。 わたしは主。 時が来れば、速やかにそれをする。」

## 第61章

- 1 神である主の霊がわたしの上にある。 貧しい人に良い知らせを伝えるため、心の傷ついた者を癒やすため、主はわたしに油を注ぎ、わたしを遣わされた。 捕らわれ人には解放を、囚人には釈放を告げ、
- 2 主の恵みの年、われらの神の復讐の日を告げ、すべての嘆き悲しむ者を慰めるために。
- 3 シオンの嘆き悲しむ者たちに、灰の代わりに頭の飾りを、嘆きの代わりに喜びの油を、憂いの心の代わりに賛美の外套を着けさせるために。 彼らは、義の樅の木、栄光を現す、主の植木と呼ばれる。
- 4 彼らは昔の廃墟を建て直し、かつての荒れ跡を復興し、廃墟の町々、代々の荒れ跡を一新する。
- 5 他国の人は立って、あなたがたの羊の群れを飼い、異国の民があなたがたの農夫となり、ぶどう作りとなる。
- 6 しかし、あなたがたは主の祭司と呼ばれ、われわれの神に仕える者と言われる。 あなたがたは国々の財宝を味わい、彼らの富を誇る。

- 7 あなたがたは恥に代えて、二倍のものを受け、人々は侮辱に代えて、その分け前に喜び歌う。それゆえ、人々は自分の地で二倍のものを所有し、とこしえの喜びが自分のものとなる。
- 8 「まことに、わたしは主、公正を愛し、不法な略奪を憎む。わたしは真実をもって彼らのわざに報い、永遠の契約を彼らと結ぶ。
- 9 彼らの子孫は国々のうちで、末裔は諸国の民のうちで知れ渡る。彼らを見る者はみな、彼らが主に祝福された子孫であることを認める。」
- 10 私は主にあって大いに楽しみ、私のたましいも私の神にあって喜ぶ。主が私に救いの衣を着せ、正義の外套をまといせ、花婿のように栄冠をかぶらせ、花嫁のように宝玉で飾ってくださるからだ。
- 11 地が芽を出し、園が蒔かれた種を芽生えさせるように、神である主が、正義と賛美をすべての国々の前に芽生えさせるからだ。

## 第62章

- 1 シオンのために、わたしは黙っていない。エルサレムのために沈黙はしない。その義が明るく光を放ち、その救いが、たいまつのように燃えるまでは。
- 2 そのとき、国々はあなたの義を、すべての王があなたの栄光を見る。そのとき、あなたは新しい名で呼ばれる。主の御口が名づける名で。
- 3 あなたは主の手にある輝かしい冠となり、あなたの神の手のひらにある王のかぶり物となる。
- 4 あなたはもう、「見捨てられた」と言われず、あなたの土地は「荒れ果てている」とは言われない。かえって、あなたは「わたしの喜びは彼女にある」と呼ばれ、あなたの国は「夫のある国」と呼ばれる。それは、主の喜びがあなたにあり、あなたの国が夫を得るからである。
- 5 若い男が若い女の夫となるように、あなたの息子たちはあなたの夫となる。花婿が花嫁を喜ぶように、あなたの神はあなたを喜ぶ。
- 6 「エルサレムよ、わたしはあなたの城壁の上に見張り番を置いた。終日終夜、彼らは、一時も黙っていてはならない。思い起こしていただくようにと主に求める者たちよ、休んではならない。
- 7 主を休ませてはならない。主がエルサレムを堅く立て、この地の誉れとするまで。」
- 8 主は右の手と力強い腕によって誓われた。「わたしはあなたの穀物を再び敵に食物として与えはしない。あなたが労して作った新しいぶどう酒を、異国の民が飲むことはない。
- 9 取り入れをした者が、それを食べて主をほめたたえ、ぶどうを取り集めた者が、わたしの聖所の庭でそれを飲む。」
- 10 通れ、通れ、城門を。この民の道を整えよ。盛り上げ、土を盛り上げて、大路を造れ。石を除いて、もろもろの民の上に旗を揚げよ。
- 11 見よ、主は地の果てに聞かせられた。「娘シオンに言え。『見よ、あなたの救いが来る。見よ、その報いは主とともにあり、その報酬は主の前にある』と。」
- 12 彼らは、聖なる民、主に贖われた者と呼ばれ、あなたは、追い求められる者、見捨てられることのない都と呼ばれる。

## 第63章

- 1 「エドムから来るこの方はだれだろう。ボツラから深紅の衣を着て来る方は。その装いには威光があり、大いなる力をもって進んで来る。」 「わたしは正義をもって語り、救いをもたらす大いなる者。」
- 2 「なぜ、あなたの装いは赤く、衣はぶどう踏みをする者のようなのですか。」
- 3 「わたしはひとりでぶどう踏みをした。諸国の民のうちで、事をともにする者はだれもいなかった。わたしは怒って彼らを踏み、憤って彼らを踏みにじった。彼らの血の滴りはわたしの衣にはねかかり、わたしの装いをすっかり汚してしまった。
- 4 復讐の日がわたしの心のうちにあり、わたしの贖いの年が来たからだ。
- 5 見回しても、助ける者はだれもなく、支える者がだれもないことに啞然とした。それで、わたしの腕がわたしの救いとなり、わたしの憤り、それがわたしの支えとなった。
- 6 わたしは怒って諸国の民を踏みつけ、わたしの憤りをもって彼らを酔わせ、彼らの血の滴りを地に流れさせた。」
- 7 私は主の恵みを語り告げる。主の奇しいみわざの数々を。主が与えてくださったすべてのことを。そのあわれみと豊かな恵みにしたがって与えてくださった、イスラエルの家への豊かな恵みを。
- 8 主は言われた。「まことに、彼らはわたしの民、偽りのない子たちだ」と。こうして主は彼らの救い主になられた。
- 9 彼らが苦しむときには、いつも主も苦しみ、主の臨在の御使いが彼らを救った。その愛とあわれみによって、主は彼らを贖い、昔からずっと彼らを背負い、担ってくださった。
- 10 しかし彼らは逆らって、主の聖なる御霊を悲しませたので、主は彼らの敵となり、自ら彼らと戦われた。
- 11 そのとき、主の民はいにしえのモーセの日を思い出した。彼らを、ご自分の群れの牧者たちとともに海から導き上った方は、どこにおられるのか。その中に主の聖なる御霊を置いた方は、どこにおられるのか。
- 12 その輝かしい御腕をモーセの右に進ませ、彼らの前で水を分けて、永遠の名を成し、
- 13 彼らに深みの底を歩ませた方は、どこにおられるのか。荒野の中に行く馬のように、彼らはずまずくことはなかった。
- 14 谷に下る家畜のように、主の御霊が彼らを憩わせた。このようにして、あなたはご自分の民を導き、ご自分のために輝かしい名を成されました。
- 15 どうか、天から見下ろし、ご覧ください。あなたの聖なる輝かしい御住まいから。あなたの熱心と力あるわざは、どこにあるのでしょうか。私へのたぎる思いとあわれみを、あなたは抑えておられるのですか。
- 16 まことに、あなたは私たちの父です。たとえ、アブラハムが私たちを知らず、イスラエルが私たちを認めなくても、主よ、あなたは私たちの父です。あなたの御名は、とこしえから「私たちの贖い主」。
- 17 主よ。なぜあなたは私たちをあなたの道から迷い出させ、私たちの心を頑なにしておいて、あなたを恐れなくされるのですか。あなたのしもべたち、あなたのゆずりの地の部族のために、どうかお帰りください。

- 18 あなたの聖なる民がこの地を所有して間もなく、私たちの敵はあなたの聖所を踏みつけました。
- 19 私たちは、とこしえから、あなたに支配されたこともなく、御名で呼ばれたこともない者のようです。

## 第64章

- 1 ああ、あなたが天を裂いて降りて来られると、山々はあなたの御前で揺れ動きます。
- 2 火が柴に燃えつき、火が水を沸き立たせるように、あなたの御名はあなたの敵に知られ、国々はあなたの御前で震えます。
- 3 予期しない恐ろしいことをあなたが行われるとき、あなたは降りて来られ、山々はあなたの御前で揺れ動きます。
- 4 とこしえから聞いたこともなく、耳にしたこともなく、目を見たこともありません。あなた以外の神が自分を待ち望む者のために、このようにするのを。
- 5 あなたは会ってくださいます。喜び、正義を行う者たちに。彼らは、あなたの道であなたを心に留めます。実にはあなたは、激しく怒られました。私たちはその道で久しく罪の中にいたのです。私たちは救われるでしょうか。
- 6 私たちはみな、汚れた者のようになり、その義はみな、不潔な衣のようです。私たちはみな、木の葉のように枯れ、その咎は風のように私たちを吹き上げます。
- 7 しかし、あなたの御名を呼ぶ者はなく、奮い立って、あなたにすぎる者もいません。あなたは私たちから御顔を隠し、私たちの咎によって、私たちを弱められました。
- 8 しかし、今、主よ、あなたは私たちの父です。私たちは粘土で、あなたは私たちの陶器師です。私たちはみな、あなたの御手のわざです。
- 9 主よ、どうか激しく怒らないでください。いつまでも、咎を覚えていないでください。どうか今、私たちがみな、あなたの民であることに目を留めてください。
- 10 あなたの聖なる町々は荒野となっています。シオンは荒野となり、エルサレムは荒れ果てています。
- 11 私たちの聖なる美しい宮、私たちの先祖があなたをほめたたえたその場所は火で焼かれ、私たちが宝とした所は、すべて廃墟となりました。
- 12 主よ。それでも、あなたはじっとこらえ、黙っていて、私たちをこんなに苦しめるのですか。

## 第65章

- 1 「わたしを尋ねなかった者たちに、わたしは尋ね求められ、わたしを探さなかった者たちに、わたしは見出された。わたしの名を呼び求めなかった国民に向かって、『わたしはここだ、わたしはここだ』と言った。
- 2 わたしは終日、頑なな民に手を差し伸べた。自分の考えのまま、良くない道を歩む者たちに。
- 3 この民はいつもわたしに逆らってわたしの怒りを引き起こす。園の中でいけにえを献げ、れんがの上で犠牲を供え、

- 4 墓地に座り、見張り小屋に宿り、豚の肉を食べ、汚れた肉の汁を器に入れ、
- 5 『そこに立っていよ。私に近寄るな。私はあなたにはあまりにも聖なるものだ』と言う。これらは、わたしの怒りの煙、終日、燃え続ける火である。
- 6 見よ、これはわたしの前に書かれている。わたしは黙っていない。必ず報いる。わたしは彼らの懐に報いる。
- 7 おまえたちの咎とおまえたちの先祖の咎を ともどもに。 —主は言われる— 彼らは山の上で犠牲を供え、丘の上でわたしをそした。わたしは、彼らのかつての行いを量って、彼らの懐に報いる。」
- 8 主はこう言われる。「ぶどうの房の中に甘い汁があるの見れば、『それを損なうな。その中に祝福があるから』と言うように、わたしも、わたしのしもべたちのために、そのすべては滅ぼさない。
- 9 わたしは、ヤコブから子孫を ユダから、わたしの山々を所有する者を 生まれさせる。わたしの選んだ者がこれを所有し、わたしのしもべたちがそこに住む。
- 10 わたしを求めた、わたしの民にとって、シャロンは羊の群れの牧場、アコルの谷は牛の群れの伏すところとなる。
- 11 しかし、おまえたち、主を捨てる者たちよ、わたしの聖なる山を忘れる者、ガドのために食卓を整える者、メニのために、混ぜ合わせた酒を盛る者たちよ。
- 12 わたしはおまえたちを剣に渡す。それで、おまえたちはみな、虐殺されて倒れる。わたしが呼んでも答えず、わたしが語りかけても聞かず、わたしの目に悪であることを行い、わたしが喜ばないことを選んだからだ。」
- 13 それゆえ、神である主はこう言われる。「見よ、わたしのしもべたちは食べる。しかし、おまえたちは飢える。見よ、わたしのしもべたちは飲む。しかし、おまえたちは渴く。見よ、わたしのしもべたちは喜ぶ。しかし、おまえたちは恥を見る。
- 14 見よ、わたしのしもべたちは心の底から喜び歌う。しかし、おまえたちは心の痛みによって叫び、霊に傷を受けて泣き叫ぶ。
- 15 おまえたちは自分の名を、わたしの選んだ者たちにのろいとして残す。神である主は、おまえたちを殺す。しかし、自分のしもべたちを ほかの名で呼ぶ。
- 16 この地で祝福される者は まことの神によって祝福され、この地で誓う者は まことの神によって誓う。かつての苦難は忘れられ、わたしの目から隠されるからだ。
- 17 見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。先のことは思い出されず、心に上ることもない。
- 18 だから、わたしが創造するものを、いついつまでも楽しみ喜べ。見よ。わたしはエルサレムを創造して喜びとし、その民を楽しみとする。
- 19 わたしはエルサレムを喜び、わたしの民を楽しむ。そこではもう、泣き声も叫び声も聞かれない。
- 20 そこにはもう、数日しか生きない乳飲み子も、寿命を全うしない老人もいない。百歳で死ぬ者は若かったとされ、百歳にならないで死ぬ者は、のろわれた者とされる。
- 21 彼らは家を建てて住み、ぶどう畑を作って、その実を食べる。
- 22 彼らが建てて他人が住むことはなく、彼らが植えて他人が食べることはない。わたしの民の寿命は、木の寿命に等しく、わたしの選んだ者たちは、自分の手で作った物を 存分に用いる

ことができるからだ。

- 23** 彼らは無駄に労することもなく、子を産んで、突然その子が死ぬこともない。彼らは主に祝福された者の末裔であり、その子孫たちは彼らとともにいるからだ。
- 24** 彼らが呼ばないうちに、わたしは答え、彼らがまだ語っているうちに、わたしは聞く。
- 25** 狼と子羊はともに草をはみ、獅子は牛のように藁を食べ、蛇はちりを食べ物とし、わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を加えず、滅ぼすこともない。—主は言われる。」

## 第66章

- 1** 主はこう言われる。「天はわたしの王座、地はわたしの足台。あなたがたがわたしのために建てる家は、いったいどこにあるのか。わたしの安息の場は、いったいどこにあるのか。
- 2** これらすべては、わたしの手が造った。それで、これらすべては存在するのだ。—主のことば—わたしが目を留める者、それは、貧しい者、霊の砕かれた者、わたしのことばにおのく者だ。
- 3** 牛を屠る者が、人を打ち殺す者。羊をいけにえにする者が、犬の首を折る者。穀物のささげ物を献げる者が、豚の血を献げる者。乳香を記念として献げる者が、偶像をたたえる者。実に彼らは自分の道を選び、そのたましいは忌まわしいものを喜ぶ。
- 4** わたしも彼らを厳しく扱うことを選び、彼らに恐怖をもたらす。それは、わたしが呼んでもだれも答えず、わたしが語りかけても聞かず、わたしの目に悪であることを行い、わたしの喜ばないことを選んだからだ。」
- 5** 主のことばにおのく者たちよ、主のことばを聞け。「あなたがたを憎み、わたしの名のゆえにあなたがたを押しつける、あなたがたの同胞は言った。『主に栄光を現させよ。おまえたちの楽しみを見てやろう』と。しかし、彼らは恥を見る。」
- 6** 都から騒ぎが、宮から声が聞こえる。敵に報復する主の御声が。
- 7** 「彼女は産みの苦しみが来る前に産み、陣痛が来る前に男の子を産み落とす。
- 8** だれが、このようなことを聞き、だれが、これらのことを見たか。地は一日の苦しみに産み出されるだろうか。国は一瞬にして生まれるだろうか。ところがシオンは、産みの苦しみと同時に子たちを産む。
- 9** わたしが胎を開きながら、産ませないだろうか。—主は言われる—わたしは産ませる者なのに、胎を閉ざすだろうか。—あなたの神は仰せられる。」
- 10** エルサレムとともに喜べ。すべて彼女を愛する者よ、彼女とともに楽しみ。すべて彼女のために悲しむ者よ、彼女とともに喜び喜べ。
- 11** あなたが彼女の慰めの乳房から飲んで満ち足り、その豊かな乳房から吸って喜びを得るために。
- 12** 主はこう言われる。「見よ。わたしは川のように繁栄を彼女に与え、あふれる流れのように国々の栄光を与える。あなたがたは乳を飲み、脇に抱かれ、膝の上でかわいがられる。
- 13** 母に慰められる者のように、わたしはあなたがたを慰める。エルサレムであなたがたは慰められる。
- 14** あなたがたがこれを見るとき、その心は喜び、骨は若草のように生き返る。主の手はそのしもべたちに知られる。その憤りは敵たちに。」

- 15 見よ。主は火を伴って進んで来られる。その戦車はつむじ風のように。主は激しい憤りをもって、怒りを下し、火の炎をもって、叱責を下す。
- 16 実に、主は火をもってさばき、その剣で、すべての肉なる者をさばく。主に刺し殺された者は多い。
- 17 「自分の身を聖別し、身をきよめて園に行き、その中にある一つのものに従って、豚の肉、忌むべき物、ねずみを食らう者たちは、みなともに絶ち滅ぼされる。――主のことば。」
- 18 「わたしは彼らのわざと意思を知っている。わたしはすべての国々と種族を集めに来る。彼らは来て、わたしの栄光を見る。
- 19 わたしは彼らの中にしるしを置き、彼らのうちの逃れた者たちを諸国に遣わす。すなわち、タルシシュ、プル、弓を引く者ルデ、トバル、ヤワン、そして、わたしのうわさを聞いたことも、わたしの栄光を見たこともない遠い島々に。彼らはわたしの栄光を諸国の民に告げ知らせる。
- 20 彼らはすべての国々から、あなたがたの同胞をみな主への贈り物として、馬、車、輿、らば、らくだに乘せて、わたしの聖なる山エルサレムに連れて来る――主は言われる――。それはちょうど、イスラエルの子らが穀物のささげ物をきよい器に入れて、主の宮に携えて来るのと同じである。
- 21 わたしは彼らの中からも、ある者を選んで祭司とし、レビ人とする――主は言われる。
- 22 わたしが造る新しい天と新しい地が、わたしの前にいつまでも続くのと同じように、――主のことば―― あなたがたの子孫とあなたがたの名もいつまでも続く。
- 23 新月の祭りごとに、安息日ごとに、すべての肉なる者がわたしの前に来て礼拝する。――主は言われる――
- 24 彼らは出て行って、わたしに背いた者たちの屍を見る。そのうじ虫は死なず、その火も消えず、それはすべての肉なる者の嫌悪的となる。」